

久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 13,671名

同窓会ホームページ <http://fusetsu-dosokai.com/> 随時更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル『思考廻廊』



11回生のパネル／同窓会



12回生のパネル／交友之道



■ 挨拶	第8代会長 吉田清隆(23回生)、学校法人久留米大学 理事長 永田見生、 久留米大学学長 内村直尚、久留米大学附設中学校・高等学校校長 町田 健(23) 後援会会長 藤本剛史(41).....	3
■ 支部だより	全国8支部の活動(福岡、北海道、中部、関西、中四国、長崎、熊本、東京).....	8
■ 名簿利用手引き	21
■ 海外だより	兼清貴久(40)、岡本達哉(48).....	22
■ 高良随想	城下尊之(22)、椎葉 裕(28)、丸山剛弘(37)、財津弘彬(57).....	24
■ 古稀を迎えて	石橋秀一・田中康二郎・橋本和幸・武藤邦弘(20).....	28
■ 還暦の会	森 明彦(29).....	32
■ エピソード	郡司(満留)真吾・森(竹之下)弘太・岡 泰宏・齊藤高志(40).....	34
■ 会務報告	定期総会報告、活動報告、会計報告、役員・世話人名簿.....	36
■ 在校生への支援	進路講座.....	44
■ 大学だより	三溝稜人(66)、萩原美咲(67)、崎原大暉(69)、平野 環(71).....	48
■ 母校のいま	大学合格状況、在校生の活躍、生徒会長 杉本青唯(72)、文化祭実行委員長 市川直太郎(72)、 教育振興基金報告、附設グッズ紹介.....	52
■ 会費・寄付・広告	58
■ 会告・編集後記	130

久留米大学附設中学校・高等学校全景



- ① 正門
- ② 校舎東棟
- ③ 校舎西棟
(この西側(写真右側)の現・駐車場
に新特別教室棟を建設)
- ④ 1号館
(解体後、跡地に第二体育館を建設)
- ⑤ 体育館・食堂
- ⑥ 第1グラウンド
- ⑦ 第2グラウンド
- ⑧ 高校寮
- ⑨ 中学寮
- ⑩ 陶芸教室棟

校歌

久留米大学 附設中学校
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞
数 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい
若き血潮の高鳴るを
見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川
高き彼岸の光明を
見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として
築く不朽の真善美
見ずや 我等の大使命



同窓会会長 挨拶

久留米大学附設高等学校創立75周年・ 中学校創立55周年記念事業募金への ご協力をお願いします!

久留米大学附設高等学校同窓会 第8代会長 吉田 清隆 (23回生)

同窓会の皆様には日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り大変ありがとうございます。またコロナ禍に対し日々ご尽力されている同窓生医療従事者の方々に感謝申し上げます。

世の中はようやく落ち着きを取り戻し、マスクなしの生活が可能となってきました。

母校では、今年3月の卒業式から出席者や来賓に制限を設けない従前の式典に戻り、4月の中高入学式を含めて、私も招待を受け同窓会を代表して祝辞を差し上げることができました。

多くの支部活動も停滞してきましたが、熊本、福岡、関西、中部、東京の支部総会がリアルあるいはハイブリッド開催となり、懇親会を再開する支部もでてきたので、今後のリベンジ活動が楽しみです。

2022年度会計のトピックとしては、終身会費について157名からの納入があり、この10年で最高を記録することになりました。65回生以降の若手は高校在学中に校納金と一緒に納め100%の納入ですが、卒業後に納入となっている1回生から64回生の合計12,297名に対する納入率が61.5%になりました。納入された方々には感謝ですが、未納者もまだ多数いますので、納入者が増えるよう努力して参ります。

さて、高校創立75周年・中学創立55周年記念事業が2025年(令和7年)11月に実施されます。

去る7月16日の定期総会では「募金の協力」を決議し、同窓会をあげて募金活動を行うことにしました。この同窓会報30号には、募金の趣意書、募金の依頼書と振込用紙を同封しました(インターネット経由の募金も可能です)。

母校のホームページには専用ボックスが設けてあり、記念事業の準備状況や募金の状況などが適宜アップデートされますので是非ご覧ください。また久留米大学の広報誌“EQUAL”(1、4、7、10月発行)も母校や大学のホームページから閲覧でき、「附設だより」もありますし、募金者名が順次掲載されます。

2025年には1回生が90才を迎えます。1回生から16回生は御井校舎の卒業ですが、1968年(昭和43年)7月に今の野中校舎に新築移転となり、その時17回生が高校3年生、18回生が2年生、19回生が1年生でした。翌年の1969年(昭和44年)4月に町田健校長(23回生)をはじめ中学1回生が入学しました。

記念事業が全世代の附設同窓生の記憶に残る事業となるよう全力で母校に協力して参る所存です。

我々にできる母校への恩返し、母校への貢献は募金が一番ですので、重ねてお願いいたします。

私事ですが昨年サラリーマンをリタイアしました。直前の10年間はプロジェクトのリーダーとして、契約先の中国の国営企業のHSE(安全衛生環境)や品質の管理システムが国際基準に達すべくサポートしてきました。当時、現地の仲間に世界への針路を見定めるため啓蒙していた言葉があり、同窓会向けに修正を加えました。

A、B、C……X、Y、Zに各々1、2、3……24、25、26と数字を与え、足し算して単語を数値化します。我々は母校の先生や同窓会の先輩から多くを学び“KNOWLEDGE”を蓄えましたが96点です。同窓会活動や懇親会に参加し汗をかき“HARD WORK”しますが、まだ98点です。加えて大切なことは、母校や同窓会を盛り上げていこうとする気持ちや姿勢、即ち“ATTITUDE”を持ち続ける、これで100点です。

“KNOWLEDGE”を蓄え、“HARD WORK”で汗をかき、“ATTITUDE”をもって同窓会活動に臨んでいけばきっと、世界一!の同窓会が実現できるでしょう。

記念事業のテーマとスローガンが決まりました。

テーマ:「百年を見すえて」

スローガン:「より強く より確かな進歩

～ progressus fortior es ceihor ～

(ラテン語)



理事長 御挨拶

附設中高生の活躍

学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

私は、2022年11月開催の学校法人久留米大学の理事会において、2023年1月1日から3年間の任期で理事長（3期目）に選任され、引き続き、法人経営の舵取りを担わせていただいております。近年、我が国の社会経済情勢に大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日から、これまでの2類相当から5類感染症に変更され、医療及び社会的対応が変わったことを踏まえ、法人執行部としても経営に係る影響を注視しながら、適切な対応を図っていきたいと考えております。向後、これまで以上に本学の発展に努める所存ですので、皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げますとともに、現況をご理解の上ご援助、ご支援の程を宜しくお願い致します。

さて、近年、日本の研究力の低下が叫ばれており、教育・研究機関である本学としても危機感を抱いているところです。例えば、自然科学分野の研究において世界的権威とされるノーベル賞ですが、2022年は日本人の受賞はありませんでした。このままでは今後、自然科学部門においてノーベル賞受賞者が出るのは難しいと指摘する学者もいます。資源に乏しい日本が繁栄と国際競争力を維持するには、科学技術を支える高い研究力が欠かせません。政府は科学振興政策を検証し、現状を打破しなくてはならないとっております。しかし、研究力の重要な指標である発表論文の数や質で、日本の順位低下は顕著です。それでも、2023年6月15日発刊の日経新聞によると、世界で2020年代後半に普及する見通しの革新的ながん治療技術において、日本の存在感が高まっていると掲載されています。実際に、特許の競争力の集計においても日本が首位で、長年優位を保った米国を2021年に逆転しました。免疫薬などに次ぐ治療の新たな選択肢として「重粒子線治療」「ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）」「光免疫療法」が大いに期待されているところですが、日本企業は足元で優位に立つ技術力を武器に、これらの治療を受けられる施設、設備の導入を国内で広げると

ともに、海外への治療機器の輸出を急拡大していません。

このような状況の中、附設高校校の生徒達の活躍には目を見張るものがあり、中学3年生の卒業論文が、読売新聞社主催の「第66回日本学生科学賞全国中央審査」において科学技術振興機構賞を、旺文社主催の「第66回全国学芸サイエンスコンクール」において日本科学技術振興財団理事長賞（金賞）を受賞いたしました。また、高校生も、「ヨーロッパ女子数学オリンピック」日本代表として銅メダルを、「第34回国際生物学オリンピック」の日本代表として金メダルを、「第55回国際化学オリンピック」の日本代表として金メダルを獲得、あるいは「第12回科学の甲子園全国大会」に本校選抜チームが出場し、総合優勝には届かなかったものの4部門中の2部門で第1位を獲得していることから、日本の将来を担う新たな世代が着実に育っていることを実感している次第です。

附設高校を卒業された同窓生の方々には優れた能力を持った人材が豊富であり、様々な分野において、我が国の発展に貢献されているものと思慮しております。同窓生諸氏の我が国のみならず世界における貢献と、益々のご活躍を期待しています。



学長 御挨拶

寛容の心で共に生きる

久留米大学 学長 内村直尚

日頃より同窓会会員の皆様には温かい御支援を賜り、心より感謝致しております。附設高校は1950年に創設され、2025年に75周年を迎えることとなります。75周年に向けて、同窓会会員の皆様のさらなるご支援をお願い致したいと願っております。

2020年1月からのコロナ禍で生活リズムが乱れ、コミュニケーションが図れず、不安やストレスが増した方は少なくありません。在宅時間の増加で家族の絆が深まった方もいれば、様々な問題が生じた方もいます。また、何かと他人の行動を厳しく見咎める風潮が強まったように思います。しかし、コロナ禍をはじめ地球温暖化など複雑で多様な難題に直面し、私たちは自分一人あるいは一企業では解決できないことや人間の限界に気付いています。だからこそ、今は寛容さをもって互いに連携して乗り越える時であり、それにより新たな繋がりが生まれると思います。ピンチは変革のチャンスでもあるのです。

このような日常で大切なのは、各人が実現可能な身近な目標をもつことであり、その日々の積み重ねにより将来の希望が見えてくると思います。例えば、ラジオ体操などの日常のありふれたことでも毎日の達成感を味わうことで、自分の存在を確認することができます。また、寝る前に一つでも良かったことを思い返し、頑張った自分を褒めてあげましょう。互いを認めたり褒めたりすることも大事で、朝の挨拶一つでも相手を認めた行動ですし、認められ褒められた相手は希望が持てるようになります。それを毎日繰り返すことが生きる実感につながります。

心に余裕をもって他人へ接することが大事です。つらさや悲しみを体験すると人は強くなり寛容になります。ポストコロナの時代は心の時代、今は少し立ち止まり準備する期間として、将来この苦勞が報われるよう活かせればと思います。私たちは大学や職場で多くの人と出逢いながら人生を送ります。人との出会いや出来事から人生は形作られ、体験や笑い、悲しみ、怒

り、喜びなどの感情を分かち合えることでコミュニケーション能力が高まり、信頼関係が生まれます。自分に厳しく、周囲に寛容に振る舞うことが安心、つまり心理的安全につながり、変化に強い組織形成の根幹となります。学問や仕事の力量、能力は高いに越したことはありませんが、人としての魅力、すなわち人間性が大きな成果や幸せを生み出します。そして、人間性を高めることを意識して努力することが「心の偏差値を高める」ことにつながります。しっかりと心を磨き、自分を立派に成長させてください。

今後も久留米大学学長として久留米大学、附設高校および附設高校同窓会の発展に少しでも寄与できるよう励んで参ります。至らない点も多々あろうかと存じますが、同窓会会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。



校長 御挨拶

創立75周年を見据えて 輝く伝統をさらに持続させるために

久留米大学附設中学校・高等学校校長
(高校23回生・中学1回生)

町田 健

附設高校同窓生の皆さまには、日頃よりの多大なご支援に心よりの感謝を申し上げます。新型コロナウイルス感染症はようやくその脅威を減衰させつつはありますが、昨年度はまだ感染者数の爆発的増大が断続的に訪れ、感染の蔓延を危惧しながらの学校生活でした。しかし、皆さまよりのご寄付により成り立っている教育振興基金などの活用によって、何とか満足すべき感染対策を実行することができましたし、同時に生徒たちと教職員の弛まぬ努力が注がれたお陰で、昨年度も例年通りの輝かしい進学実績を上げることができました。東京大学37名、京都大学11名、九州大学医学部医学科29名、国公立大学医学部医学科合計69名などの成果は、附設が如何なる艱難にも屈することなく、着実にまた逞しく歩みを進めていることの雄弁な証左だと言えます。この優れた成果に応じて、附設の卒業生たちのあらゆる分野での活躍が、幅広く報じられていることを誇らしく感じております。

附設高校は1950（昭和25）年に、附設中学は1969（昭和44）年に創設されましたが、来たる2025（令和7）年には、高校創立75周年、中学創立55周年を迎えます。これらを記念する事業として、第二体育館と新教育棟の建造が大学によって承認され、現在そのための準備を進めております。また、グラウンド脇のいわゆる「憩いの森」と現在の体育館横のスペースを整備して、生徒たちが屋外で芸術活動などを実施する施設や附設の理念と伝統を象徴するためのモニュメントを、同窓会の皆さまよりのご寄付を資源として建造する計画も立てております。附設高校中学が全国にその名を馳せることの明示的な認知を確保する手段としての以上のような記念事業に対しても、同窓生の皆さまからの力強いご支援とご助力を賜ることができれば幸いに存じます。

長きに渡り輝かしい伝統を築き上げてきた附設の力があれば、それ以後も絶えざる躍進を続けることは十分に可能だと考えます。ルネサンス初期のイタリアの

詩人ダンテは、その偉大な作品『神曲』（La Divina Commedia）の中で次のように語っています。

Vien dietro a me, e lascia dir le genti :
sta come torre ferma, che non crolla
già mai la cima per soffiar di venti.

私の後に着いてきて、
人々には次のように語らせなさい。
その尖端が強風に逆らって
折れることのない堅固な塔のように立てと。

（「煉獄編」第5節）

附設の堅固な伝統が決して衰えることなく維持されることを心より願っております。





後援会長 御挨拶

御挨拶と母校の近況

後援会会長 藤本 剛史 (高校41回生・中学19回生)

昨年度より引き続き後援会会長を務めさせていただいております藤本剛史です。附設中学校19回生、高校41回生として卒業し、久留米大学を卒業後に産婦人科医として研鑽のちに2015年より実家の産婦人科医院を継承開業しております。

父が高校14回生であり、また子供が高校1年生(74回生)として在学中で、三世代にわたり縁のある学校に後援会として携われることを大変嬉しく存じます。

さて皆様も御存知の通り、昨年度の本校の卒業生の合格実績は国公立大学、医学部がそれぞれ前年度を上回り特に九州大学の医学部は過去最高となる29名が合格しました。また東京大学については、理科I類が過去最高の現役生20名が合格するなど、すばらしい結果となりました。同窓生として大変誇らしく、今後もさらなる飛躍を期待しております。

また昨年度もお伝えしましたが2020年度～2021年度は新型コロナウイルスの影響で行事は下記のようになりました(開催しても保護者の入場制限などあり)。

2020年度

後援会総会 中止 / 文化祭 中止 /
 高校体育祭、中学校体育大会 開催 /
 中1オリエンテーション 中止 /
 中3修学旅行 中止 / 高2のスキー旅行 中止

2021年度

後援会総会 委任状議決 / 文化祭 開催 /
 高校体育祭、中学校体育大会 時期をずらして開催 /
 中1オリエンテーション 中止 /
 中3修学旅行 中止 / 高2のスキー旅行 中止

しかし2022年度は

後援会総会 開催 / 文化祭 開催 /
 高校体育祭、中学校体育大会 開催 /
 中1オリエンテーション 実施 /
 中3修学旅行 実施 / 高2スキー旅行 実施

と、新型コロナウイルスの影響がありながらもすべての行事が行われました。

さらに今年度は先日行われました文化祭も非常に盛会に終わりました。やっと生徒たち、また保護者の皆さまにもコロナ前の通常通りの生活が戻ってきているようです。

さらにこちらも昨年度から申しておりますが、2025年には附設高校75周年、中学校55周年記念事業があります。今年度より募金も開始しました。今回の事業は1号館を現校舎の西側へ移設、現1号館の場所に第2体育館を建築、憩いの森の整備などを予定しています。その他、記念式典、記念誌などすべての業務には同窓会の皆様の御支援が不可欠です。後援会としましても微力ながら協力してまいります。

今年度も後援会に御支援、御協力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

令和5年度 附設中学校高等学校後援会役員名簿

役 職	氏 名 (数字は回生)	新学年
会 長	藤本 剛史 (41)	高1
副 会 長	松尾 貴代美	高3
副 会 長	横倉 義典	高2
副 会 長	前山 泰彦 (44)	中3
会計主任	林 ひろみ	高1
庶務主任	堺 めぐみ	高3
庶務主任	小倉 容子	高1
庶務主任	森 龍祐 (46)	中3
庶務主任	今泉 裕登 (35)	中3
庶務主任	太田 理絵	中3
庶務主任	鈴木 晴美	高3
庶務主任	木内 美音湖	高2
庶務主任	中川 智治 (38)	中2
庶務主任	田島 智子	中2
庶務主任	大神 久美子	中2
庶務主任	樋口 桂子	中2
監 事	徳永 久美恵	高1
監 事	出口 弘子	高2

全国各地で様々な同窓会活動が繰り広げられています。

この『支部だより』コーナーでは、
各支部からの活動報告をお届けします。

● 福岡支部 ●

福岡支部活動報告
OB会復活

福岡支部長 実藤 光二郎 (26回生)

福岡支部の運営は、回生代表世話人会を年2回開催し、各回生及び職域の代表世話人に参集頂き、支部総会をはじめとした活動・取組の各回生への伝達や総会出欠の取り纏め等をお願いしています。

コロナ禍の中でも参集頂きました回生世話人各位には、改めて御礼申し上げます。

また、県内で、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊・北九州の6つのOB会が運営されており、OB会が地域内同窓生の繋がりを深め、県内同窓生のネットワークを支えていただいています。

この回生世話人会とOB会の開催により、1年を通して支部総会に向けての機運を高めた上で、7月の支部総会を迎えるというのが、福岡支部の1年間の流れです。

しかしながら、令和2年の春先より始まったコロナウィルス蔓延により、この流れは断ち切れ、令和4年7月に3年振りとなる集合形式での支部総会を開催させて頂きましたが、懇親会抜きということで、出席者は例年の1/3の107名に留まりました。

また、各所のOB会も令和2年2月の朝倉OB会以来、

開催が途切れておりました。

このような中、令和4年12月2日に有明OB会が開催されました。

久々の開催ということで、有明OB会恒例の卓話にかわり、参加者一人一人より近況報告を行い、ご当地映画「いのちスケッチ」「向田理髪店」やTV「池の水抜きちゃいました」出演や宝くじ一等当選などの話も出て、アクリル板越しながらも、懇親を深めることができました。

OB会は、回生を越えて附設同窓生としての親睦を深めるのはもちろんですが、地域内の先輩・後輩の繋がりの中で、ビジネスの幅が広がる機会ともなっています。

コロナの終息とともに、有明以外のOB会も順次再開されるよう、各OB会の自主性と特色を尊重しつつ、福岡支部としてバックアップしてまいりたいと考えております。

開催スケジュールについては、同窓会HP等で適宜ご案内いたしますので、是非ご参加下さい。



●福岡支部●

令和4年度 福岡支部 収支報告書

【収入の部】

(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 前年度繰越金	4,025,652	
2. 総会会費	140,000	4年7月17日 会費 1,000円×107名 ゴルフ会参加費 33,000円を含む
3. 広告等協賛金	2,914,000	同窓会誌広告協賛金の40%
4. 回生代表世話人会会費	57,000	3年12月10日開催 29名(内学生1名)
5. 同窓会本部補助金	160,000	3年12月10日開催 回生世話人会開催補助
6. 預金利息	27	
7. その他の収入	30,000	4年7月17日 総会お祝い金
計	7,326,679	

【支出の部】

(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 事務費		
印刷費	58,604	総会パンフレット代
事務雑費	1,705	振込手数料
2. 事業費		
支部・定期総会時の消耗品費	4,140	来賓用リボン、ネームプレート、使い捨てマスク
会議費	190,800	幹事団打合せ諸費
OB会・支部総会へのお祝い金等	0	開催無し
支部・定期総会	990,549	ソラリアホテル 851,730円 ゴルフ会経費 138,819円
交通・宿泊費	15,000	来賓並びに講師お車代
回生代表世話人会	217,000	3年12月10日 西鉄ソラリアホテル
3. 翌年度繰越金	5,848,881	
計	7,326,679	

久留米大学附設高等学校同窓会福岡支部の令和4年度収支は上記の通りであり、その内容が妥当であることを確認しました。

令和5年4月3日

令和5年4月3日

33回生会計幹事

34回生会計幹事

松本 孝文

秋本 丈司

● 福岡支部 ●

令和5年度 定期総会・福岡支部総会報告

幹事長 井村公哉 (34回生)

令和5年7月16日(日)、ソラリア西鉄ホテル福岡にて久留米大学附設高等学校同窓会 令和5年度定期総会及び福岡支部総会が開催されました。今年度は、4年ぶりの対面形式での懇親会を伴う総会となり、同窓生240名、来賓(恩師)6名、総勢246名の同窓会関係者が一堂に会し、懇親の輪を深めることができた総会となりました。

今総会のスローガンは、我々34回生高校3年時の体育祭のスローガンでもあった「剛健力闘」を掲げました。迫りくるリタイヤを前に、最後まで一踏ん張り、この国を盛り返す男気を見せようや、そういう思いで、久留米大学附設高等学校は永遠に不滅、その気概を持って企画・運営に努めさせていただきました。

まずは、前日の7月15日(土)には、同窓生25名が集い、親睦ゴルフコンペが、古賀ゴルフ・クラブにて開催されました。



翌日7月16日(日)15時より、福岡支部総会が開催され、引き続き15時30分より、定期総会が開催されました。その後、中川原修君(34回生)に『30年の助走』という演題で講演を行っていただきました。



懇親会は、現役在校生の合唱団に登場いただき、校歌斉唱からのスタートとなりました。参加された皆様にとっては、当時を思い出すとともに、今の母校を顧みることができた懇親会になったものと思います。



最後になりますが、総会企画ならび運営におきましては、学校関係者、同窓会幹部の皆様、回生世話人の皆様、この会報に広告を掲載していただいた皆様、幹事団として共に活動していただいた同期の仲間に、心から感謝申し上げますとともに、母校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。

久留米大学附設高校同窓会 北海道支部会報告

北海道支部長 **西見寿博** (20回生)

2023年7月1日(土)、久留米地方は線状降水帯の危険性もある梅雨の時期でしょうが、北海道はやや天気崩れ気味で、初夏のひとつきを同窓生6名で過ごしました。コロナ禍で集うことができず、3年ぶりの同窓会でした。会場は狸小路の銀座ライオンで、以前の同窓会での定番会場での再会でした。

参加者は20回生檀浦龍二郎さんと私、43回生桜木修

くん(事務局)、47回生古瀬康紘くん、66回生小水一慶くん、高木翔成くんの6名でした。桜木くんのお陰で広範囲に案内できたのですが、また次回へ希望を持ちたいと思っています。

5月の理事評議員会の報告も行いました。7月中旬から高校75周年、中学55周年への寄付金案内が送られてくる予定とのことも報告しました。



左から順に筆者、古瀬くん、檀浦くん、桜木くん、高木くん、小水くん

● 中部支部 ●

中部支部だより
3年ぶりの再会を祝って

中部支部副支部長 荒巻卓博 (29回生)

昨年11月、新型コロナ感染の第7波と第8波の間隙をついて、3年ぶりの支部総会を面着（编者注：トヨタなどで使われている言葉の一つで、対面によるコミュニケーションの意味）で開催しました。中部支部総会として、第6回となりました。中部支部からは、その時の様子をご紹介します。

今回は、同窓会本部からのご来賓2名を含めて、14人での総会となりました。残念ながらコロナの猛威の中、連絡の届いている内の約半数の出席となりましたが、それでも、やはり顔を合わせての総会はとても盛り上がり、附設の同窓生の絆を深めることができました。

出席いただいた最年長は炭田潤一郎(8回生)さん、最年少は平田克弘(35回生)さんと、幅は広いものの、少々年配寄りでした。そういう私(荒巻29回生)も還暦の年で、今年の3月には、29回生の還暦同窓会が久留米で開催(私はリモート参加しました)されまし

た。話を中部支部総会に戻して、今回は、久しぶりの開催ということもあって、同窓会本部の吉田清隆会長(23回生)と、中村和徳副会長(27回生)にわざわざお越しいただきました。参加いただいたお一人お一人から近況を報告いただき、校歌を合唱し、楽しいひと時を過ごしました。

今年令和5年度も、面着での支部総会を開催予定です。例年11月の第四土曜日の夜に開催してきましたが、今回は、できるだけ多くの人にご参加いただけるように事前のアンケートを行い、9月～11月の間での総会の開催を計画します。今後も中部地区での附設高校卒業生の交流がますます発展し、附設の実力を遺憾なく発揮する機会がさらに増すことを祈って、支部活動を盛り上げていきたいと思っております。附設高校の卒業生で、中部地区にお住まいの方、是非とも同窓会中部支部(takrmfstds@aol.com)へご連絡ください。



支部総会后 定例の記念写真 (R4年11月)

関西支部活動報告(令和4年度)

関西支部長 甲斐田 郁夫 (21回生)

昨年度の支部活動報告は、学生が集まりやすい、京都の同志社大学寒梅館7F(同大学法科大学棟の最上階)のレストランウィルで関西支部同窓会を開催する事のみをご報告しました。今回は会の内容などを、写真を含めてご報告したいと存じます。

7月の祇園祭りにおける京都市の不手際により、開催日の8月6日(土)においては、京都のコロナ感染者は爆発的な増加をみせておりました。中止も一時は検討致しましたが、この機を逃せば対面での同窓会を開催する目処が立たなくなる事、可能な限りでの予防策が講じられていた事を考慮し、開催を決定しました。

『行きたいが、歳を考えると残念ですが見送ります。』とのご連絡を、何人もの諸先輩方からいただきました。

さて、当日は社会人7名、学生8名の計15名での小ぢんまりとした会となりましたが、現役の若手医師2名に参加いただきましたのは、心強くまた幸甚でもございました。

少人数ではありましたが、同窓会から総会お祝金・学生補助金をいただき、おかげさまで盛大に開催する

ことができました。学生諸氏には、それぞれ今後の抱負などを述べていただきましたが、1人の女子大学生からは、母校附設に戻って教鞭に立ちたいとの、嬉しくも頼もしい発言もありました。

会の終了後、2週間ほど学生参加者の経過観察を行いました。幸いにもコロナ感染者は発生せず、一安心いたしました。

さて、今後の同窓会運営ですが、コロナ以前は恒例であった大阪での関西支部同窓会を本年度は年末に開催予定です。さらに、これも又恒例であった新入大学生歓迎会を来春に京都で開催の予定です。

最後に、毎回お願いをしております事を一言申し上げます。関西支部は、大都市支部のような名にしては、社会人会員数が少なく苦勞しております。この会報をお読みいただいた皆様の知己の方で、関西地区に在住の方がおられましたら、私の携帯電話(090-9623-8244)乃至メールアドレス(taretare_ikutan@yahoo.co.jp)に、ご連絡いただくよう労をお取りいただければ幸いです。

以上



●中四国支部●

附設高校同窓会中四国支部活動状況

附設高校同窓会(2022.4～2023.5)報告

中四国支部長 近藤 治幸 (16回生)

2020年3月末、今田忠則支部長(19回生)から近藤が引継いで以降、コロナ感染状況は依然として予断を許さず、その影響が継続していたため、定期総会をやむを得ず延期し、同様に、夏恒例の納涼会、新年懇親会も取り止めるに至って3年が経過してしまいました。

その間、メールアドレスを登録している会員に対し、2019年度、2020年度、2021年度支部活動報告(これらはそれぞれ会員に送付される同窓会報に掲載される予定の原稿です。)を事前にメール配信し、会員との情報の共有とコミュニケーションを図りました。

また、同窓会会報への会員の広告掲載にご協力をいただいた方々には、改めてお礼を申し上げます。掲載料金のうちから支部活動の財政支援として同窓会本部より還付金を頂戴していることも、合わせてご報告の上、誌面を借りまして心から感謝を申し上げます。

事務局としては、2022年度も(現在も同様ですが)、メールでの意見の交換により、意思疎通を図ってまいりました。2023年度も引き続き会員の皆様とも、メール等を活用したコミュニケーションを図っていきたいと思っています。

《活動状況》

- 2021.5.22(土)「支部長；理事；評議員の打ち合わせ会を「ZOOM会議」で試みました。
- 2021.7.18(日)の理事評議員WEB会議及び定期総会WEB会議に参加しました。

<1、2は再掲>

- 2022.5.29(日)に開催された理事評議員会に出席しました。

コロナ感染の鎮静化が見られるなか、感染対策実施の下、だだっ広い会議室で開催されました。ただし、懇親会はありません(残念ながら)。なお、中四国支部の理事・評議員で打合せを行い、7月以降の懇親会(幹事会)、11月頃の支部定期総会について協議しました。

しかし、8月のビアパーティー開催を準備していましたが、コロナ感染の急な悪化の状況を鑑み中止となり、そして、遺憾ながら、秋の支部定期総会も中止に至りました。

なお、2022.7.17(日)の福岡で開催された同窓会定期総会は、出席が叶いませんでしたが、インターネット配信により、その状況を垣間見れたことは、大変有意義でした。今後も、遠隔地の為出席叶わぬ同窓会会

員のためにも、本部のご配慮をいただけたらと思います。

- 2022年11月、2023年1月、3月とメールにて打合せ、4月8日(土)に、急遽、事務局打合せ(対面)を行いました。もう、そろそろ活動開始の時機到来と判断し、様子を見極めながらですが、7月～8月の夏の懇親会、秋の支部定期総会(11月18日(土)夕刻～広島ガーデンパレス、を予定)、等の実施に向けて、皆さんに開催をお諮りしたいと思っています。
- 2023.5.22(月)、①同窓会報の広告掲載依頼及び②支部活動報告のお知らせ、を登録会員宛てメール配信しました。
- 2023.5.27日(土)の理事・評議員会に出席しました〔今回は、懇親会も久し振りに開催〕。なお、2025年の創立75周年記念行事に取り組む時期となりましたので皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。《「募金目標1億円!」を目指しましょう!》

《ご報告》

- 2023.4.9(日)の鳥根県知事選挙で、丸山達也氏(36回生)が再選されましたこと、二期目のご活躍を祈念いたしますとともに、少なからぬエールをお贈りしたいと思います。〈*2023.4.10(月)に、ご再選祝意メッセージ(メール)をお送りいたしました。〉
- 2023.4.18(日)【広島大学75+75周年記念事業シンポジウム】「核兵器の廃絶に向けて—放射線災害への備え」が開催され、田代聡教授(28回生)が「核の脅威に備える医療開発」のテーマで講演されました。〈支部長他オンライン参加しました。内容詳細はインターネットで【広島大学75+75周年記念事業シンポジウム】を検索してください。〉

なお、コロナ禍の下、現役の方々の職務遂行のご心労に、そして、行政上の対策に奔走されている方々のご活躍にも厚く御礼申し上げます。

勿論、人知れず、「行動自粛」しながら、感染対策を励行しておられた皆様方へも、心からありがとうございます、と申し上げる次第です。

これからは、世情不安が払拭され、「日常」が戻ってくるものと信じています。

《今後のコロナ感染の鎮静と世情不安の払拭を祈念しつつ筆をおきます。》

最後にしたいコロナ下長崎支部活動報告

長崎支部長 安武 亨 (24回生)

私が前任の碓秀樹(24回生)支部長から引継いで長崎支部長に就任したのが2019年、その後、3年任期の予定が、うっかりしており、今年の秋までさせて頂くこととなりました。しかしながらコロナのせいで、全く対面での活動をしておりません。対面での活動がほぼ無いまま、私の任期は終わりそうです。

そうは言っても、何かせねばと、令和4年11月12日(土)19時よりオンラインで例会を開催しました。尾長谷靖さん(33回生)に「喘息と咳とPM2.5とコロナーあれもこれもそれもどれも、難しいデス」との講演を頂きました。「へー」と思わせられることだらけでした。池松和哉さん(38回生)が令和4年10月1日付で長崎大学医学部長に着任しましたので、挨拶頂きました。お祝いの言葉が寄せられました。推薦すべき次期支部長にうっかり同意頂いていなかったことに気づいた私は総会の場で支部長1年延長の許可をもらいました。その後、宴会に突入。飲食は各自準備し、会費なしの宴会です。学生も含めた十数名の参加で、それぞれが近況報告を行いました。近況報告の中で、附設高校に行ったお子さんとほかの進学校に行ったお子さんと両方持つ親である同窓生の話で、「附設は自由だと感じました」との話は印象に残りました。いつもは校歌を合唱するのですが、私たちの力ではオンライン合

唱は無理だとわかり、今回、校歌は歌っておりません。私の努力が足りないのではありますが、対面では40名ほどの参加がある長崎支部例会で、やはり寂しい気がします。

翌日にはゴルフコンペも大村湾カントリー倶楽部ニューコースで開催されました。参加は10名。優勝は福田実さん(32回生)、ベストグロスは福島徹也さん(39回生)でした。

以上、長崎支部報告でした。



●熊本支部●

熊本支部頑張ってますよ

熊本支部長 砥上 幸一郎 (17回生)

令和2年1月9日、世界保健機関（WHO）が中国湖北省武漢市における肺炎の集団発生が新型コロナウイルスによるものと声明を出して以来、多人数の懇親会も避けられ、ハイブリッド形式の懇親会を余儀なくされてきましたが、令和5年3月13日からマスク着用が個人の判断となり、同年5月8日からは新型コロナウイルス感染症が「2類」からインフルエンザと同じ「5類」へと移行しました。新型コロナウイルス感染症が消失した訳では無いですが、我々の日常生活にもコロナ以前の快活さが戻りつつあります。今後、感染が再度ブレイクしない事を願う次第です。

令和4年10月2日に熊本支部総会を、令和5年3月18日に熊本支部卒業生祝賀会を開催しましたので報告します。

「令和4年度熊本支部総会および懇親会」



令和4年10月2日(日)にホテル日航熊本で令和4年度熊本支部総会を開催しました。会場にZoomを併用したハイブリッド形式での開催としました。会場での参加者は社会人17名、学生13名(うち新入生7名)の計30名で、Zoomからの参加者は社会人6名、学生2名の計8名で、合わせて38名の参加者数でした。同窓会長の吉田清隆さん(23回生)、東京支部長の栗木康幸さん(21回生)にZoomで御列席頂き、総会を行いました。また、三井住友海上火災保険人事部部長の丸山剛弘さん(37回生)から「附設校歌のルーツ」について御講演頂きました。その後の懇親会には同窓会副会長の古賀善彦さん(23回生)、同じく副会長の中村和徳さん(27回生)、附設高校の町田健校長(23回生)にも御列席頂き、嬉しい



懇親会となりました。今期で支部長を勇退される川崎博さん(16回生)に、これまでのご功労に敬意と感謝の意を込めて花束の贈呈をさせて頂きました。

「令和5年度熊本支部卒業生祝賀会」



令和5年3月18日(土)にホテル日航熊本で令和4年度熊本支部卒業生祝賀会を開催しました。卒業生は8名でしたが祝賀会に出席できたのは古川智裕さん(62回生)と森早希さん(63回生)の2人でした。吉田清隆同窓会会長、町田健校長から臆の言葉を頂き、片渕秀隆副支部長(22回生)の乾杯の音頭で祝宴の開始となりました。宴たけなわの頃、2名の卒業生からご挨拶と今後の抱負を述べてもらいました。また、熊本大学病院救急部教授の入江弘基さん(36回生)から祝辞を頂きました。さらに村上尚彌さん(33回生)、熊本県立大学学長の堤裕昭さん(23回生)からご挨拶頂き、最後に校歌斉唱に続いて記念撮影を行い、副支部長の豊福士文さん(25回生)に締めめの挨拶をおこなって頂き閉会となりました。

この会は3月13日からマスク着用が個人の判断となった事に加え、5月8日から新型コロナウイルスが5類へ移行すると決定していた事もあり、対面形式のみの開催となりました。新型コロナウイルス感染症が今後再びブレイクする可能性は残っていますが、今年10月に開催予定の令和5年度支部総会はマスク無しの対面での懇親会となると期待している所です。

令和5年度 熊本支部総会及び懇親会のご案内

日 時▶令和5年10月22日(日) 午後4時から開催

場 所▶ホテル日航熊本

講演会講師▶熊本県立大学学長 堤 裕昭(23回生)

連絡先▶ユニ建築設計有限公司 村上尚彌(33回生)

T E L ▶096-372-0004

E-mail▶uni-sekkei@muf.biglobe.ne.jp

東京支部だより

東京支部長 栗木 康幸 (21回生)

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行したのは、今年の5月8日でした。この原稿執筆時点が7月上旬ですので、わずか2か月前がはるか以前だったと感じるほど世の中はアフターコロナに沸き返っています。しかし1年前の昨年度(2022年4月～)を振り返ってみますと、すでに身の回りでは対策を講じながらリアルでのイベントが始まっていたの思い出します。私事で恐縮ですが、2022年4月に娘の結婚式を完全リアルで挙行したのは記憶に新しいところです。

東京支部では前半はややスローペースで、少人数の懇談会は実施しましたが、毎月の本部との会議や6月の回生代表世話人会はリモートベースでの開催でした。後半から少しずつリアルを取り戻し、10月の支部総会では懇親会は自粛したものの100名を超える参加者を迎えイベントを開催し、リモート配信も行いました。また暮れの回生世話人会から2023年にかけては、フル規格のリアル開催を目指してギアチェンジをしてきました。

今年の新年早々には5月から再開予定のゴルフ大会の開催手順確認のために企画した、誰が名付けたか「コッソリゴルフ大会」と銘打ってコンペを開催したところ、20名ものゴルフ好きが集まりたいへん盛況でした。またなんとといっても感慨深いのは2月に、途絶えていた附設塾を元東京高等検察庁検事長の21回生青

沼隆之さんを講師にお迎えし、懇親会も含めて再開できたことです。

一方コロナ期での中断は仕方がないとして、就職支援セミナーと新人歓迎会の再開が出来なかったことが東京支部としては大きな反省点です。2020年春の大学1年生は現在4年生になっており、新しい企画案が必要かと手をこまねいているうちに時期を失ってしまった感があります。これは高校を卒業後の若い世代から同窓会活動に関心を持ってもらい参画を促す入り口でのたいへん重要なイベントであるため、今年度は何とか新しい形で復活させたいと思います。

東京支部の活動は、支部としての活動、本部活動への参加に加えて、在京の地元団体すなわち高卒礼会、くるめつつじ会、各校の東京同窓会との参加・交流などがあり、今年度からは吉田清隆会長(23回生)はじめ東京在住の本部役員の方にも出番が多くあります。

今年度も、はや5か月が過ぎようとしています。会報発行の頃には、2回の回生代表世話人会、再開2回目の附設塾(講師:36回生、飯沼良介さん)、春のゴルフコンペなどが順調に開催され、年内のイベント日程もほぼ確定しています。また、高校創立75周年・中学創立55周年の記念事業への募金活動と事業企画検討が本格化します。

同窓会員の皆様のさらなるご関心とご協力をお願いいたします。

新人歓迎会／就職支援セミナー

東京副支部長 大津 良太 (51回生)

はじめに、栗木支部長の「東京支部だより」にも記載していただいたように、昨年、コロナが落ち着いたタイミングではあったものの、新人歓迎会と就職支援セミナーを通常開催できなかったこと＝学生同窓生の機会を奪ってしまったことを事務局としてお詫び申し上げます。コロナの状況を鑑みつつ、何とか数年ぶりの「リアル」開催をと動いておりましたが、「リアル」にこだわりすぎたせいで、事務局の体制が整わなかったことが最大の原因だと考えています。

そんな中、昨年は実施できなかったものの、毎年開催を続けていたため、回生世話人や年齢の近い同窓生からの紹介で、直接事務局メンバーへ就職支援の依頼が複数届き、個別にフォローし、納得いく就職活動をする一助になったことは、事務局メンバー一同嬉しく

感じております。

本年は、65回生～69回生の回生代表世話人各1名、私を含めた事務局4名で連携し、「東京支部学生&新社会人懇親会」というイベントを企画している最中です。本イベントを通し、コロナの影響で通常通りフォローできていない回生との懇親を図り、来年以降の「新人歓迎会」と「就職支援セミナー」のリアル開催への足掛かりにしたいと考えています。

最後となりましたが、コロナ前、コロナ禍、そしてアフターコロナにおいて、家庭や仕事、学業が忙しい中、同窓会活動に惜しみなく労力と時間を割いてくださっている、事務局メンバーにお礼を申し上げます。いつもありがとうございます。

●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部

令和4年度会計報告書(令和4年4月～令和5年3月)

会計担当副支部長 深野 章

【収入の部】

(単位:円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	2,719,967	3/31通帳残2,719,967円+令和4年度会場費前払い等0円
総会収支	1,122,405	
同窓会本部補助	153,000	回生代表世話人会経費補助
利息	25	
計	3,995,397	

【支出の部】

支部会議費	172,000	会合費(回生代表世話人会、附設塾懇親会)
総会関連費	0	
新人歓迎会	0	新人歓迎会に伴う会合費
附設ゴルフ	0	トロフィー代
交流費	24,000	他高の同窓会・くるめつつじ会等への出席等(剣道部奨励金)
事務費	19,956	送金料、通信費、事務局印刷代
小計	215,956	
翌年度繰越金	3,779,441	3/31通帳残3,753,001円+令和5年度会場費前払い等40,440円-くるめつつじ会半額補助14,000円
計	3,995,397	

【総会収入】

会費	112,000	
寄付	30,000	同窓会本部
広告	2,914,000	広告収入および寄付の総額のうち東京支部配分額
計	3,056,000	

【総会支出】

会場費	1,332,512	表参道スパイラルホール 室料、飲料代
交通費	300,000	ご来賓・パネラー 交通費
冊子印刷代	45,650	名札/領収書・式次第 印刷費
総会雑費	77,703	Zoomウェビナー、映像配信機器代、振込手数料等
幹事会合費	177,730	幹事団懇親会費
計	1,933,595	

【総会収支差額】 1,122,405

令和5年度支部活動予算(総会を除く)

支部役員活動費	200,000	会合費(拡大正副会長会、つつじ会を含む)
事業費	200,000	回生代表世話人会、就職セミナー、新人歓迎会等
合計	400,000	

活動報告(令和4年4月～令和5年3月)

2022/6/4(土)	第25回東京回生代表世話人会(45名@WEB)
2022/10/15(土)	東京支部総会(@表参道スパイラルホール)
2022/11/9(水)	くるめつつじ会出席
2022/12/10(土)	東京支部役員会
2022/12/10(土)	第26回東京回生代表世話人会(38名@新橋亭)
2023/2/4(土)	第8回附設塾

上記は当会の財産の状況を正しく表しているものと認めます。

監査担当

高木 裕康

令和4年度 東京支部総会のご報告

39回生幹事長 金城 順之介

2022年(令和4年)10月15日(土)、表参道スパイラルホールにおきまして、令和4年度東京支部総会が開催されました。令和元年度以来、3年ぶりのリアル開催かつzoom配信という初のハイブリッド形式です。コロナ禍の影響で懇親会は開催できませんでしたが、感染対策を講じた上で約150名のリアル参加とともに、全国のOBOG諸氏だけでなく母校の在校生へもzoom配信を提供することができました。



幹事団挨拶 中央でマイクを持っているのが筆者



第1部では、栗木康幸支部長(21回生)のご挨拶に始まり各種議事が滞りなく執り行われました。



栗木支部長挨拶



吉田会長挨拶



町田校長挨拶

小休憩を挟んで第2部は、吉田清隆会長(23回生)、町田健校長(23回生)からご挨拶を賜り、39回生の担任だった大津留敬先生からのビデオメッセージも披露されました。



大津留先生ビデオメッセージ

その後、39回生のメイン企画であるトークセッション『生討論! 修羅道の世を救うべく』を実施しました。各界で活躍する39回生5名(堀江貴文、孫泰蔵、岸拓弥、次田彰、中村健一)をパネリストに迎え、今

後のわが国の展望について熱い議論が交わされました。会場も大いに盛り上がり、成功裏にイベントを終えることができました。

コロナ対策の観点から、飲食なし・2時間以内という制限の中での開催でしたが、役員の皆様方や33回生、38回生の先輩方の手厚いサポートのおかげで、東京支部総会を実現できましたこと本当に感謝しております。次回は40回生が幹事学年となります。引き続き私たち39回生もサポートいたしますので、皆様、令和5年度もよろしくお願いいたします。



トークセッション
左からコーディネーターの古門成年、次田、堀江、孫、岸、中村



令和5年度東京支部総会 のお知らせ

11/25(土)
14:00~18:00

会場:大手町サンケイプラザ 4F

4年振りに懇親会を伴う、東京支部総会となります。オンラインによるハイブリッドでの開催を予定しており、世界中どこからでも参加できます。

幹事団より「再会-再開、新たなバトンをつなぐ」の思い込めてお待ちしております。

皆様万障お繰り合わせの上、お知り合いの同級生・同窓生をお誘い合わせいただきたく、宜しくお願ひ申し上げます。

皆様と一堂に会し、大いに盛り上がることを今から楽しみにしております。

2023年8月 40回生幹事団一同

スケジュール

受付 13:30~
総会 14:00~
懇親会 15:00~
中締め 17:30

会費・申し込みフォーム

決まり次第同窓会ホームページにてお知らせします。
<http://fusetsu-dosokai.com/>



LINE登録

LINEで随時情報発信していきます。



会場 大手町サンケイプラザ

東京都千代田区大手町1-7-2 4階

(東京メトロ 大手町駅 A4・E1出口 丸の内線/半蔵門線/千代田線/東西線/三田線 JR東京駅 丸の内北口より徒歩7分)



開催様式 ハイブリッド(懇親会を伴う実開催+オンライン)

来賓 校長:町田健先生(23回生) 恩師:中島健治先生(21回生) 田中真弓先生 他

連絡先 東京支部総会幹事長 齋藤崇之(40回生) fusetsu40_dousokai@googlegroups.com

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

保存版

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

「HPの新しいドメインは<http://fusetsu-dosokai.com/>です」

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことができます。**ログインID：旧ログインIDと同じ****パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字**

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問合わせ」メールフォームからご連絡ください。

- 1** ホームページのWEB名簿
ボタンをクリックして下さい。



クリック!!

- 4** ご自身の登録情報の確認と変更
開示の可否はご自身でお決めください。



編集画面

- 2** 「会員ID／パスワード」を入力後、
ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと
生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、
すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に
変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった
場合は、登録済のメールアドレスと生年月
日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に
守られますが、各会員におかれましても、ご
自身のID／パスワードは確実に保管してい
ただきますようお願いいたします。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いた
だきますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、
ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同
期のみ公開」「非開示」の設定ができます。

- 3** 会員専用サイトでは主に以下のような
機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲
覧することができます。

- 5** WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用している
SNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。メールアドレスをお持ちでない方は、
FAXやお電話で代理入力しますので
同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257



かね きよ たか ひさ
兼 清 貴 久 (40回生)

経 歴

山口県出身

1999年 大阪大学医学部卒業

2007年 大阪大学医学系研究科医学部
大学院卒業

2008年 Postdoc Research Fellow,
Washington University
School of Medicine in St.
Louis

2013年 Assistant Professor of
Neuroscience, Mayo Clinic
Jacksonville

2021年 Associate Professor of
Neuroscience, Mayo Clinic
Jacksonville

連絡先

kanekiyo.takahisa@mayo.edu



ジャクソンビルビーチ



Mayo Clinic Jacksonville内の筆者の
ラボのある建物

フロリダ・ジャクソンビルより

40回生の兼清貴久と申します。私は大阪大学医学部卒業後、小児科医として働いておりましたが、脳神経障害に苦しむ患者さんを診るにつれ、それらの病態に対する新しい治療法を開発したいと思うようになり、2003年に大学院に入学し基礎研究の世界に飛び込みました。当初は臨床医に戻るつもりでいましたが、2008年よりアメリカのセントルイスにあるWashington University School of Medicineにポスドクとして研究留学する機会があり、気付けばそれ以来アメリカで研究生生活を続けています。およそ10年前に運よく研究費を獲得することができ、フロリダ州にあるMayo Clinic Jacksonvilleにて自分の研究室を立ち上げました。現在もそこでアルツハイマー病や脳血管性認知症といった神経変性疾患の研究を続けています。

今日ではいろいろな遺伝学研究により、いくつかの脂質代謝に関わる遺伝子の異常がアルツハイマー病のリスクを上昇させることがわかってきています。特に脳内で脂質の細胞間運搬に重要な役割をしているアポリポプロテインEをコードしているAPOE遺伝子にはAPOE 2, APOE 3, APOE 4の遺伝型があって、APOE 4保因者はアルツハイマー病や脳血管性認知症の発症率が高いことが知られています。なぜかはわかっていませんが、APOE 4の影響は日本人で他の人種に比べ強いとされています。その一方でAPOE 2保因者は認知症のリスクが低くなり長寿とも関係しています。そこで私たちは脂質代謝やAPOE遺伝子に注目し、老人性認知機能障害の病態解明を目指しマウスモデルやiPS細胞を用いて研究をしています。

Mayo Clinicはアメリカでも最も有名な病院の一つで、臨床活動だけでなく教育・基礎研究にも力を入れている医療研究機関でもあります。ミネソタ州ロチェスターに本部はありますが、フロリダ州ジャクソンビルとアリゾナ州スコッツデールにもキャンパスがあります。私たちの住んでいるジャクソンビルはフロリダ州の北東部にあるのでマイアミほど高温多湿ではありませんが、それでも夏は蒸し暑いです。夏はほぼ毎日、局所的に雷雨となるのですが数時間で晴れるので、意外と傘を使う機会はありません。毎年ハリケーンが到来する危険があるので注意は必要ですが、幸いなことに私たちの住んでいる地域では今のところ大きな被害がでるようなハリケーンが直撃したことはありません。アメリカの他の大都市に比べるとジャクソンビルに住んでいる日本人は多くないので、ちゃんとした日本食レストランはあまりありませんが、日本の食材はアジア系スーパーマーケットでも最近では買えるので、そこまで困ることはありません。ダウンタウンを除けば治安もいいですし美しいビーチもあるので、比較的住みやすい街だと思います。

さてアメリカの医学研究が日本に比べ優れているかといわれれば、正直なところよくわかりません。こちらでやっているような研究の大部分は日本でもできると思います。またアメリカの研究施設では人件費を含め実験に必要な経費のほとんどは研究室主宰者の研究費で賄わなければならないので、研究費が獲得できなければ職を失うことになってしまいます。ただ、なんだかんだで世界中から多くの研究者がアメリカに集まってくるので、多種多様なバックグラウンドをもつ人々と一緒に切磋琢磨して仕事をするのはストレスもありますが、良い刺激になり楽しくもあります。コロナ禍もあり日本から海外留学する研究者が減少していると聞きますが、少しでも本稿が若い世代の科学者の皆さまの参考になりましたら幸いです。



おかもと たつ や
岡本 達哉

(中学26回生・高校48回生)

福岡市東区出身

1994年 久留米大学附設中学校入学
2000年 久留米大学附設高等学校卒業、一橋大学商学部入学
大学での専攻は人材マネジメント論
2004年 一橋大学商学部卒業、ヤマハ発動機株式会社入社
工場生産されたオートバイを国内・海外の販売店に届ける物流業務に従事。2007年から2010年までインド・ニューデリーにあるIndia Yamaha Motorへ出向
2010年 GEヘルスケア・ジャパン株式会社入社
MRIなど大型医療機器のアジア地域の需要予測および米国本社と供給折衝を行うサプライチェーン業務に従事
2016年 セコム株式会社入社
海外における警備ビジネスの拡大を行う業務に従事。2017年より、英国・ロンドンにあるSECOM Plcへ出向。現在に至る。

連絡先 shimirunaa@gmail.com

異国で走りながら考えたこと

「ピンク橋」—この名前を聞いて懐かしさを感じる同窓も多いと思うのではないのでしょうか。附設の西側の裏門から正源寺・競輪場を抜け高良川を信愛の方へ数キロ遡ったところに現れるあのピンク色の橋です。大学受験を控えた高校3年、白のランニングシャツと短パンで毎日あの橋まで走っている同窓生の村上楽君(48回生)がいました。「こんなときに、なんでそんなことを」と当時は不思議でなりません。彼は現役で国立大学の医学部へ進学、今は小児科医として活躍をしています。

「気温40度の中で走るのって面白そうじゃないですか？」オートリキシャーのクラクションがけたたましいインド・ニューデリー。20代半ばで赴任し娯楽の少ない日々を悶々と過ごしていた自分に知己の日本在住者が声をかけてくれたことが、きっかけでした。灼熱の暑さで気が狂いそうになる嫌悪感と、それとは相反するどこか部活の後に似た爽快感。車窓を通して見ていた街並みが、まるで違って感じる。紅茶で井戸端会議を続ける門番、裸足でクリケットに興じる子どもたち、死んでるんじゃないかと思っただけの昼寝をしていただけのやせ細った野犬。お世辞にもきれいとは言えない混沌の中で垣間見える営みは、母国は母国、異国は異国ということを感じさせてくれました。日本の常識で異国で過ごすことはそもそも限界があるのです。抗うのではなく、迎合していくこと。異国で過ごしていくには、これが必要なことなのではないか。話のネタ半分であったことが、思わぬ発見をもたらしてくれました。

「あなたのこと知ってるよ」30代半ばから赴任し7回目を迎えるイギリス・ロンドン郊外の夏。診察に訪れた病院で、浅黒い肌の医師がこう言います。「はて、初対面のはずだが」と訝っていると、「早朝、いつもあの通りを走ってるよね。通勤している車からいつも見えてるんだ」と一言。これまで同じように何度も知らない人から話しかけられたことを思い出し、「セキュリティの仕事柄、走ってこの町をパトロールしてるのですよ、無料で」と切り返すと、必ず笑いに包まれます。数ヶ月経っても終わらない道路工事、窓ガラスが派手に割れたままのシャッターが下りた店舗、家庭ゴミを漁る汚れたキツネ。優雅なユニオンジャックの裏にある風景は少し鬱屈としていますが、それでも朝の街を走っていると人々は朗らかに挨拶を交わしてくれます。朝の車の大渋滞、電車に飛び乗ろうと駅へと急ぐ通勤客、友達同士じゃれあいながら通学する中高生。賑わう朝の往来を見ていると、コロナ禍のロックダウンで文字通り人が街から全てが消えてしまった中で、ただ一人街を独占するかのようには走っていたことが、幻のように思えます。(注：面白いことに、ソーシャルディスタンスを保った一日一回の運動はイギリスでのロックダウン下でも認められていました。スポーツによる心身の健康維持を重んじる国民性の現れです)

15年近く走ることを続けているうちに、市民ランナーとしてはそれなりに誇れるレベルになりました。地元のランニングクラブにも参加させてもらい、体育会系のハードな練習と練習後のイギリスならではのパブの流儀の洗礼も浴びながら、周囲に日本人はほぼゼロの環境の中で、現地に溶け込んだ生活を送っています。今なら先述の村上君の気持ちができるような気がします。「大学受験の秘訣は習慣化することです」そのようなことを生徒に話していた恩師を思い出します。校内模試やら入試判定やら起伏の激しい受験生活の中で、高校生の私はその意味が正直理解できませんでした。他方、彼は走るという行為を習慣化することで、毎日一回リセットして平静を保っていたのではないかと思います。優秀な同級生の影に隠れて、将来の明確な目標もなく高良山の麓で平凡な日々を過ごしてきた自分が、成人して10年近く海外で生活できていることは不思議な気がします。日本とはまた一味違った苦楽がある中で、心身の健康を崩さずにここまでやってこれたのは、当地で自分を支えてくれる家族の存在がもちろん一番ですが、加えて一つの行動を習慣化することで毎日自分をリセットできていることも挙げられると思います。早くからこのことに気づき、日々の中でそれを実践していた同級生の成熟度に今更ながら頭が下がり、また多くの恩師・友人に恵まれた高校3年生の頃が今すぐ懐かしく思い出されます。

……と同窓会報の原稿が今日締め切りであることに気づき、朝いつものように走りながら内容を考え、大急ぎでパソコンのキーを乱打して出稿した次第です。



しろ した たか ゆき
城下尊之 (22回生)

立教大学法学部法学科
サンケイスポーツ記者
TBSテレビ

「奥様8時半です」でリポーター
日本テレビ

「うわさのスタジオ」「ルックルック
こんにちは」などにレギュラー出演
現在は、

日本テレビ系「ミヤネ屋」
FBS「めんたいワイド」

夕刊紙「日刊ゲンダイ」毎週金曜発売
で連載中

実は、同窓生はありがたい存在だ

歌舞伎俳優の市川猿之助さんをご両親とともに『一家心中を凶った』とみられる事件、自殺幇助の罪に問われる問題や今後の歌舞伎界への大きな影響など、話題が続いていった。

また、男性アイドルグループを次々に生み出すジャニーズ事務所の創始者である、故・ジャニー喜多川さんの“性加害問題”。被害を訴える人が次々に登場する一方、ジャニーさんがすでに他界しているために、この先、はっきりとした結論が出るのか難しい状況。このあたりが、ことし前半の芸能ニュースの大きな話題だった。

なぜ、こんな話から入るのかというと、私は長年、テレビのワイドショーでリポーターという仕事に就いて、特に芸能ニュースを担当していたため、常に興味は、そこにあるというわけだ。現在も時おり、「ミヤネ屋」（読売テレビ系：福岡放送（福岡）・日本テレビ（東京））に出演したり、夕刊紙「日刊ゲンダイ」で連載を続けていて、芸能ジャーナリズムの端っこで活動している。

芸能人の取材を続けてきて多くの有名人と顔を合わせてきた。中でも、長く生き残る人には「ここが違う」というポイントがあると感じている。「人心掌握」「気遣い」といった言葉がすぐに浮かんでくる。

例えば、今やトップ女優のひとり、綾瀬はるかさん。私が若い頃、やはり若手でグイグイ人気が出始めた彼女のCM撮影に一日密着した。夏の暑い盛り、外での撮影で、ワンシーンを撮り終え控え室に戻るところもカメラを回しながらついていった。すると彼女「皆さんも入ってください。エアコンが効いているし、冷たいものもありますから」。言葉に甘えて冷茶を飲み始めると、綾瀬さんが部屋の隅の薄い布のついたての向こうで着替えを始めたのだ。ビックリして、みんなで外に飛び出したのだが「全然、大丈夫です。気にしないで」と明るい声が響いた。彼女は初対面の我々に“全幅の信頼”を寄せてくれたのだ。第一印象が大事とはよく言われるが、それを大きく超えるインパクトだった。

もう長い付き合いになった館ひろしさんは、ぶっきらぼうに見えて、実は気遣いの人だ。かなり以前の映画の完成披露試写会でのこと。他の役者さんたちとの舞台挨拶で、若い女子アナが司会を務めていて、そのアナの不勉強から、出演者たちのノリが悪かった。私は館さんから「後で裏に顔を出せ」と伝言があったので、イベント後に控え室に向かった。すると人気のないロビーの隅で、館さんが女子アナに話し込んでいた。スケベ心で物陰から立ち聞きすると「これは説教じゃない。次に同じような仕事があったら、こんな風に…」と、具体的に質問の仕方や流れの作り方など丁寧に説明していた。頃合いをみて「館さん、どこですかあ」と近づくと「オイ！ 今、口説いていたのに…」と冗談に変えて、お茶タイムにしてくれた。真面目なアドバイスは人目のないところで、相手のプライドを考えた行動だった。

故・松方弘樹さんとも親しくさせてもらったし、ビートたけしさんにもいろいろ教えてもらった。多くの大物と呼ばれる人には「危機管理術」「プロ意識」「人間力」といった処世術を勉強させてもらったと感じている。政治家では、故・石原慎太郎さんには何度か取材させてもらった。大物というところでは、昨年、残念ながら亡くなった安倍晋三元総理に笑いかけてもらったことがある。総理大臣になる直前の頃だ。これは、同じ22回生の高橋精一郎さんのおかげだ。私達は彼のことを“精ちゃん”と気軽に呼んでいるが、三井住友銀行の副頭取にまでなった人物。まあ、同窓生で顔を合わせると、単なる昔の友達のままだ。我々22回生が、東京での全体同窓会の幹事役を仰せつかったことがあり、そのイベントの特別ゲストとして安倍晋三さんにスピーチをしてもらった。これは、精ちゃんが学生時代、アメリカ留学中、やはり留学していた安倍さんと遊び回っていて、そのまま交流が深かったからだ。22回生が案内役を務め、その流れの中にいた私がちょこんと会釈すると、安倍さんは目を見て満面の笑みを返してくれた。いかにも人気政治家らしい姿だった。

同窓生の縁とは、ありがたいものだ。みな、ひとかどの人物となっていて、中には、つい最近、「心臓発作で死にそうになった」という人もいる。医者である同窓生の家で飲んでいて倒れたそうで、処置が早く、生き返ったらしい。そんな話を面白おかしくしてもらえるのだから、そういう縁を大切に、時には話をするのも、いいものだと思う。



しいば ゆう
椎葉 裕 (28回生)

春日市生まれ、北九州市育ち
 東京大学文学部言語学科卒
 福岡県立田川高校、筑紫丘高校教諭～
 株式会社エフエム福岡社員～株式会社
 バインス取締役～
 現在は屋号「椎葉ユウ」として独立開業

詳しい活動は公式HPをぜひご覧ください！
 (「椎葉ユウ」で検索を)



「言葉と音楽」の現場に生きて

附設高校を卒業してはや43年、現在61歳にして未だ耳順とはいかず自分が面白いと感じる方角にばかり進み続けている私、そんな酔狂に原稿を依頼してくださった勝連治さん(33回生)に聞けば、40年ほど前に私が教育実習で附設高校に還った際に私の拙い授業を受けたとの由、それはこの依頼引き受けねばと思った次第であります。

因みに、教育実習時の記憶はほぼ朧ながら、西原和美先生が「これは椎葉君が持っていた方がいいでしょう」と国語科に置いてあった時枝誠記先生の著書を下さったこと、そして最終日に数人の生徒から「サイン帳に一言お願いします」と乞われてむず痒かったことはよく覚えています。

さて話はそこから6年ほど遡ります。1977年の冬、県立高校を受験する前に「駄目でもともの方試し」と受験したのが県内随一の学力を誇る久留米大学附設高校でありました。受験当日の朝、試験会場に入り、迫る開始時刻、周りは賢げな顔だらけ、私は当然のごとくガチガチに緊張していました。その時です、教室のスピーカーからこんな放送が聞こえてきたのです。

「心を落ち着けて、実力を出し切っていただくために、今から深呼吸をしてください」「皆さんの入学を心から待っています」

この放送で私の頭・心・身体は一挙にほぐされ、その時の自分の実力を出すことができたように思います。

お陰で附設に入学できた私は、程なく福岡方面からの通学組や洋楽好きの同志たちと仲良くなり、楽しい日々を過ごしました。小学校のころから音楽が好きで、アンプやスピーカーを自作したりもしていた私は、当然理系クラスを志望し大学で電子工学を学んで技術者になることを夢見ていました(数学や物理よりも国語や英語の方が得意だったにもかかわらず……)。

そして、理系なのにむしろ文系科目で点を取れるという特殊能力のお陰で、二次試験で大逆転、東京大学理科一類に合格したまでは良かったのですが、入学後すぐに私は大きな壁にぶち当たったのです。

工学系志望の学生として最も得意であるべき、代数幾何や電磁気学などの講義に全くついていけない、それ以前に興味を持てないのです。出席と提出物で何とか単位は貰えたものの、「進路選択ミスったんじゃないか?」という思いがだんだん募り、結局大学二年の時には三年からの文系転向を視野に、文系進学に必要な単位を取りに行っていました。

私はやっと気付いたのです。自分が好きなのは「電子部品に触れ、ハンダゴテの熱を感じながらアンプを組み立てること」であって、「頭を使い、式や理論を駆使してアンプの回路自体を作ること」ではなかったんだと。

抽象・概念の世界から、具体・実体の世界へ。五感で触れて、感じて、考える日々へ。幼い頃から本や音楽に触れることが好きだった私が、回り道はしましたが軌道修正したのが大学三年進学時の文系転向だったのです。

当時、町田健先輩(23回生、現校長)も研究室にいらっしゃった言語学科に進んだ私は、自分がそれまでに一番直接触れてきた「日本語」について主に研究し、卒業後は、日本語による作品について日本語で直接伝えコミュニケーションする、高校の国語教諭の職に就きました。今にして思えば、論文や文献で触れるよりも、直接、日々変化生成する多様な言葉に触れる現場へ向かったということだった気がします。

県立高校の教職は、まさに現場の仕事でした。生徒という日々刻々変化していく人間たちを相手に、様々なことを成し遂げ様々なことをやらかすひとりひとりと直接コミュニケーションし、言葉で聴き言葉で伝える。その難しさと醍醐味を感じられる、言語学の実践の場でもありました。

そんな大きなやりがいのある教員生活の九年間を経て、畑違いなラジオ番組制作の世界へと飛び込んだのは、偏に私を形成する二つの軸、「言葉」と「音楽」のもう片方、音楽の現場に身を置きたくてたまらなくなったからでした。

31歳にして縁あってエフエム福岡の社員として中途採用され、ひと世代下のスタッフたちと一緒にディレクター修業に励むことになった私でしたが、ある先輩社員から「君は音楽が好き過ぎるから、それを仕事にして商品として扱うのは辛いと思うよ、音楽が嫌いになるかもよ」と忠告されたりもしました。しかし、音楽の現場で音楽に触れて生きている喜びは辛さに大きく勝り、辛い音楽を嫌いになることは一度もありませんでした。そしてさらに数年後には、パーソナリティーとして言葉を使いリスナーに直接伝えるという仕事にもチャレンジすることとなり……

気付けばそれから約30年。私は、自分の感覚感性の赴くままに進んだ結果、言葉と音楽でコミュニケーションすることを生業とし続けてきました。2022年の秋からは独立開業し、言葉と音楽の現場で人を繋ぎ、自分が現場で得たものを新しい世代に共有し活かしてもらおうと精力的に活動中です。

私の敬愛するジョン・レノンには言っています。「平和とは、完全に自由なコミュニケーションのことだ」と。自分なりの「平和の偉業」のためにも、私は、現場で、共有し、コミュニケーションすることを続けていきたいと思っています。



まる やま たけ ひろ
丸山 剛弘
(中学15回生 高校37回生)

出身地 福岡県筑紫野市
大学 東京大学経済学部経済学科

職歴
1993年 住友海上火災保険(株) (現・三井住友海上火災保険(株)) 入社
現在 人事部主席スペシャリスト (主席HRストラテジスト)

連絡先
tk-maruyama@ms-ins.com



2023年4月21日掲載 ビズリーチ
「育休取ったら同僚に最大10万円」三井住友海上、施策に込めた「関係性への投資」

記事URL
<https://www.bizreach.jp/column/strategy-16/>



政府も注目 育休職場応援手当(祝い金)誕生の裏話 社長案を大幅変更、 和而不同から生まれた画期的制度

「丸山さん、ネットがすごいことになってますよ」

3月13日の朝、同僚からスマホにチャットが入りました。私は現在、三井住友海上という損害保険会社で、人材戦略を担当しています。ちょうどその前の週、春闘労使交渉において、労働組合からの賃上げ要求に対し、会社からも逆提案として、「育休職場応援手当(祝い金)」の新設を提案したところでした。

これは、社員(男女問わず)が育児休業を取得すると、育休を取得した本人ではなく、その職場の同僚に、祝い金として一人あたり最大10万円の祝い金を支給するものです。育休を取得し長期間職場を離脱する社員の罪悪感を和らげるとともに、同僚が心から子供の出生を祝い、気持ちよく育休を受け入れられるようにすることを目的としています。

昨年末に、当社の船曳真一郎社長から「一企業としてできる少子化対策、人的投資を検討せよ」との指示があったことがきっかけで、私が発案・設計し、経営会議承認を経て、労働組合に提案したばかりでした。この労働組合への提案内容が、3月12日に毎日新聞に掲載され、yahooやNewsPicsに「同僚への支給は画期的だ」「これこそ異次元の少子化対策」と称賛のコメントが寄せられ、ツイッターでは「育休職場応援手当」がトレンドワードに躍り出ているのです。

入社すると、会社には社外の方からも称賛の電話がかかってきて、広報部にはテレビ局や新聞社からの取材依頼が殺到していました。それからほぼ毎日、Nスタ、News23、スッキリ!、news every、羽鳥慎一モーニングショーなど、私の職場にテレビカメラが入り、発案者として私が取材対応することになりました。さらに、政府からも「少子化対策の参考にしたい」と小倉将信特命担当大臣(少子化対策)やその他人口問題担当の要人が来社され、社長に同席して私もインタビュー対応を行いました。

また、当初は男性社員よりも女性社員が育休を取得したときの方が多く祝い金が出る設計にしていたのですが、ネットで「男性差別だ」との声も多く書き込まれていたため、性別の差をなくす修正を進言しました。すると、即座に人事担当役員も社長もOKを出し、それを受けて労働組合にも提案内容の修正を申し出ました。この間、わずか3日の出来事でした。

この時取材に来社した朝日新聞社の記者がこの急展開に興味を持ち、AERAドットのオンライン記事に修正の経緯と私の写真が大きく掲載されました。この記事に対しても、「この規模の大企業でこうした柔軟でスピーディな対応は素晴らしい」「当初案に固執せず男女差をなくしたことが素晴らしい」との称賛がネットに多数書き込まれ、その後もビズリーチやWomanType誌などの各種メディア、企業・自治体からの訪問が今も続いています。

このように、多数の取材がありましたが、その際私は一つオブラートに包んで回答していたことがありました。実は、社長から手当新設の検討指示があった際、「子供一人目は100万円、二人目は200万円、三人目は300万円の一時金を社員に支給したらどうか」とのアイデアももらっていました。これを聞いた際、「育休者が、より申し訳ないと悩んでしまうので、逆に、周囲の同僚に祝い金という形で支給したらどうか」と人事部でのプレストで役員に進言し、それが社長にも受け入れられたという経緯があります。でも、結果的に社長のアイデアを否定してしまったので、少子化対策を指示し画期的な制度が生まれるきっかけを作った社長に申し訳ないと思い、ここは話すのを控えていました。

ところが、4月の労使交渉の場で、社長自らが「丸山さんが俺のアイデアはウケないというから、内容を変えました」と組合員に暴露し、その後発売された週刊新潮のインタビュー記事でも社長自らが「人事部の担当者が俺の案はウケないと言ってきたが、ウケないと言われたことが嬉しかった。社内に主体性が浸透してきたと思った」と発言しており、私が社長案に異を唱えていたことが公になってしまいました。

トップの案に異を唱えるという、サラリーマンとしては危なっかしいことをしていたのですが、どうやら本件ではそれが逆に良かったようです。附設中高時代は、私はどちらかといえば周囲に合わせて波風を立てないおとなしい生徒でした(と思っています)が、違うと思った場合は安易に同調せず信念を貫く「和而不同」のDNAも、一応少しは培われていたようです。付度に悩むことが多いサラリーマン社会に身を置いておりますが、附設中高の教室で毎日目にしていた「和而不同」を改めて思い出し、信念に基づく判断をこれからもしていきたいと思えます。



ざい つ ひろ あき
財津 弘 彬
(中学35回生／高校57回生)

出身
福岡県古賀市

学歴
一橋大学経済学部卒

職歴
2014年 全日本空輸株式会社 (ANA)
入社
羽田空港／フランクフルト空港でグラ
ンドスタッフを経験
2023年より国内線ディスパッチャーと
して勤務



5つの画面と航空無線で運航を監視し
ます



喜怒哀楽、試合では全ての感情を開放
します

“希望の揺籃地”で見つけたもの

附設同窓生と言えど、“ディスパッチャー”という職業に聞き馴染みのある方はあまりいらっしゃらないかと思います。映画『ハッピーフライト』では岸部一徳さんが、ドラマ『ミスパイロット』では相武紗季さんがその役を演じました。空港や機内でお客様の目に触れる事は一切ありませんが、いま宙に浮いている全ての航空機の運航は、実は機長とディスパッチャーの相互承認の上で成立しています。

ディスパッチャーの第一の役割は、気象データや機体の整備状況、乗客や搭載貨物の重量等、あらゆる情報を元に、最も安全で効率的な飛行経路や高度、適切な燃料量を割り出したフライトプランを作成する事です。安全の阻害要因を排除出来ない場合、躊躇なく欠航の判断を下す事もディスパッチャーの重要な仕事となります。無事に離陸した後はその運航を監視し、天候急変やエンジン不具合といった不測の事態によって、当初のプランからの変更を迫られた時には、残存燃料や航路の気象状態、目的地周辺の天候、風速・風向、落雷の発生状況、視界など、あらゆる条件を精査し、取るべきアクションを機長にアドバイスします。こうした役回りから、ディスパッチャーは「地上のキャプテン」とも呼ばれています。

短くても3年に亘る国家試験と社内審査を経て、私もこの6月からディスパッチャーに仲間入りしました。また気象への識見を更に深めるべく、気象予報士資格の取得にも挑戦中です。

これからもプロとして技量と人格を高め、安全で快適な空の旅の一翼を担って参ります。

そして仕事の傍ら、アメリカンフットボール社会人トップリーグ所属 ノジマ相模原 RISEの現役選手としても活動しています。大学からアメフトを始め、選手生活も気付けば15年目に突入しました。

アメフトは球技ではありますが、私が試合でボールに触れる事は滅多にありません。仲間の走路をこじ開けるため、仲間に1ヤードでも有利な陣地を引き渡すため、フルスピードで敵のキーマンに突っ込むのが私の使命です。中学生の頃からガットウーゾ選手に憧れ続け(元サッカーイタリア代表、クラスマッチでも彼のレプリカユニフォームを着ました)、気付けばこの様なプレースタイルになっていました。

日本のアメフトリーグは、選手のほとんどがフルタイムで個別に働きながらプレーする稀有なトップリーグです。選手達のそんな「二刀流」にスポットを当てられる事も多いリーグですが、だからこそ、フィールドでは各々の総合的な人間力が表れると思っています。仕事で不正をする様な人間に、厳しいトレーニングをやり抜く事など出来ません。会社の仲間やお客様に対して不誠実な人間が、試合でチームやファンのために身を投げ出せるはずがありません。逆も然りです。

アメフトは、チームに関わる各々が全く異なる役割を担い、それを全うする事で初めて勝利に近づけるスポーツです。私は選手としての自分の役割に誇りを持ち、試合で全てを出し尽くすために日常から準備をしています。そしてこれは航空機のオペレーションにも通ずるマインドだなと思い、日々の仕事にも向き合っています。

まだまだどれも道半ばではありますが、私がこの道を選んだきっかけ、それは全て附設で過ごした6年の間に落ちていたものでした。

「将来は大好きな飛行機の近くで働こう」

—そう決意したのは、修学旅行で搭乗した千歳便の機長とお話した時でした。

「進学校だからといってサッカーで負けたくない」

—私のアスリートとしての原点は、附設のゴールマウスを守っていた日々でした。

「追い山見てから学校行こうぜ」

—山笠に魅せられた高校生は、今では西流の水法被を毎年身に纏っています。

附設がこれからも末永く、そんな“希望の揺籃地”である事を祈っています。



いし ばし しゅういち
石橋 秀一 (20回生)

出身地

小倉市 (現・北九州市) 生まれ
(1954年1月)
その後 久留米へ

学歴

静岡大学人文学部卒 (1977年3月)

職歴

1977年4月 プリヂェストン入社
1988年から2003年
米国ファイアストーン社
買収に伴い14年間米国勤務

米国・日本を中心にグローバルで
プリヂェストンほぼ全ての事業を担当

2020年3月 プリヂェストン
グローバルCEO就任

古稀を迎えて——ご縁とそして感謝

福岡教育大学附属久留米中学から、丸山芳範君・久保公男君 (編者注：途中で転校)・田中利美君などと一緒に入学。篠山小学校で一緒だった小島直樹君とも再会。生徒会長 後藤俊秀君とは福岡学芸大学附属小倉小学校で一緒。地元の仲間、再会の仲間、加えて、佐賀・福岡・北九州・東京からの多くの仲間と出会う事になりました。なかなかデイベンな仲間たちで、一気に視野が広がり、刺激的な毎日でした。20回生は3年間組替えなし、私はB組でしたが故中山右尚先生もずっと一緒。全く勉強をしない私に対していつも優しく応援してくれ、江戸文化の素晴らしさも良く語ってくれました。一番刺激的だったのは、生徒会活動。会長は後藤君、副会長は吉松聡一郎君、渉外は測上忠保君など。体育祭での応援合戦、初の点火式、初の女子高校生の参加獲得など、全て任せてくれた先生方にも感謝です (実は大いにご迷惑をお掛けしました。申し訳ありません)。信愛女学院へ体育祭への参加依頼で伺った折に、シスター先生に附設は紳士ではないと言われ、ガクッときた事も良い思い出です (結局、信愛女学院の皆さんは参加頂きました)。「主体性」「生きる」とは何かなどなど、毎週のように小島君の下宿アパートで語り合い、読書家である吉松君や宗教家である測上君・お洒落な熊本啓一 (編者注：名簿上は熊本啓) 君含め、皆なかなか濃いめ。

久留米で育った私が、久留米発祥のプリヂェストンへ入社した事もお縁だと感じています。附設高校敷地も創業者 石橋正二郎氏の寄付ですし、石橋文化センター (もうすぐ古稀)、石橋文化ホール (還暦) にもお世話になりました。国内外のお客様や政府関係者を創業の地へご案内する事も度々ですが、工場、石橋美術館 (現久留米市美術館)、石橋正二郎記念館、石橋迎賓館、水明荘などをご覧頂き「最高の品質で社会に貢献」という創業者の想いを感じて頂いています。やはりルーツを大切にするという事は、グローバルで信頼を得ます。最近、附設高校42回生 天才上田泰己さんの睡眠スタートアップなども少し応援。ご縁を大切に。

プリヂェストンもグローバル企業になりましたが、やはり原点は久留米「忘れちゃいかんばい」といつも皆に話しています。附設時代の友人とは、東京で丸山君・加藤正博君・熊本君・測上君など、福岡で吉松君・小島君・後藤君など、久留米で橋本和幸君・内藤主税君・森田清貴君などなど、一緒にガヤガヤ飲んでいきます。

古稀を迎えて、改めて久留米と附設との濃くて深いご縁に感謝です。



たなか こうじろう
田中 康二郎 (20回生)

略歴

1953年 久留米市生まれ
1979年 東京藝術大学大学院修了
修了作品「庄」藝大資料館
買上げ
1979～82年、86～88年
同大彫刻科非常勤講師
1983～86年
DAAD(独文化交流協会)給
費留学
シュツットガルト国立美術
アカデミー
1988年～98年
慶應義塾高校美術科教諭
1998年～2015年
文部省(現文部科学省)
初中局教科書調査官
2005年～15年
日大大学院芸術学研究科非
常勤講師
2015年～18年
東京工芸大学芸術学部教授

展覧会、シンポジウム略歴

1977年川越石彫シンポジウム、81年九
州現代彫刻展大賞受賞(作品「環」久
留米市中央公園展示)、85年アカデ
ミー・コンクール展第1位受賞、88年
八王子彫刻シンポジウム、92年現代彫
刻ビエンナーレ・シンポジウム草津
他個展、グループ展多数



スタジオタナカ・アトリエ
「彫刻の庭」

連絡先

スタジオタナカ
Tel: 0465-25-1556
携帯: 090-4067-3407
E-mail: kojirrotank@jcom.zaq.ne.jp

石彫の道を歩みながら

附設高校同窓会報への寄稿をご依頼頂き、50数年前の私の附設在校時の記憶を浮かべてみることに致しました。私が附設高校へ入学した当時は中学部が開校された年だったと思いますが、細かな校則はなく、比較的自由的な男子校であったと記憶しています。中学時代から彫刻家となることを目指していた私は、附設在学中に藝大受験の準備ができるものと思っておりました。残念なことに当時の附設には藝大進学者は一人もおらず、必修科目3単位とすべき美術も非常勤講師の方により1学年のみ授業が行われ、受験に必要な実技の教材や設備、美術作品の展示、美大・藝大の受験情報は全く得られませんでした。やむを得ず2年生のころ以降、日曜日に、当時の県立八女高で美術教諭をなさっておられた彫刻家津留誠一先生からご自宅で石膏デッサンや塑造実技のご指導を受け、藝大受験の準備をすることに致しました。その後、東京都内目白にある美術予備校「すいどーばた美術学院」で1浪を過ごし、昭和48年に東京藝大彫刻科へ進学致しました。そのような経緯もあり、附設への意識や興味は全くありませんでした。藝大大学院修了後、彫刻科非常勤講師として藝大で勤務したのち、当時の西独シュツットガルト・美術アカデミーへDAAD給費留学し、日独の社会における美術への感じ方や扱いの違いも強く感じながら数年後帰国致しました。一旦、再度藝大へ非常勤講師として勤務するも、経済的事情から、慶應義塾高校に教諭として(慶應高校は1～3年まで選択必修の芸術科目として油彩、彫刻、工芸など様々な実技が行われております。)10年間在籍し、その後文部省(現文部科学省)初等・中等教育局美術教科書調査官となり、美術教育に関連しながら制作を続けて参りました。当時から小田原市根府川という自然豊かな地のアトリエで、石彫制作をしておりますが、高校3年の頃一度だけお会いした事のある江上寛二先生について書かれていた昨年の同窓会報(現教諭の國吉房次先生(41回生)執筆)のページを読み、現在の男女共学の附設は、美術系の受験者が毎年存在し、美術史の研究者や國吉先生をはじめ東京藝大の後輩がいることに驚きを感じております。私の同級生森山敦夫氏(朝倉市の森山クリニック院長)からお聞きしてもおりますが、附設卒業生の多彩な変化は、彫刻家である私にとっても、とても驚きで楽しみな学校になっているようです。



九州現代彫刻展大賞作品「環」
久留米市中央公園



橋本和幸 (20回生)

1953年 11月17日 大牟田市生まれ
 1972年 久留米大学附設高校卒業
 1977年 山口大学経済学部卒業
 大沢商会大阪支店勤務
 1978年 橋本事務機(株)入社
 1998年 同上 社長就任
 現在に至る

久留米商工会議所常議員
 情報文化部会会長
 NPO法人ちくご出会いサポートセンターJUNOALL専務理事
 附設高校同窓会理事・20回生代表世話人
 遠州流茶道久留米支部支部長



2021年10月10日 プリチストンカンツリー倶楽部にて、左から石橋秀一君、小島直樹君、筆者

利他の心で「知行合一」

知識を得ても実行しなければ、知識を得た事にはならない。(王陽明)

1964年8月、父が創業の為、大牟田から久留米に転居しました。城南中3年の秋に、同クラスの小島直樹君から附設を受験すると聞いて私も受験。当時、附設の存在を知らなかった私は、家の近くの明善校に行けば、クラブ活動もでき男女共学の楽しい高校生活が過ごせるだろうと思ったが、勉強に専念出来ると考え、附設に入学しました。

我々20回生担当の先生方は、旧藩校の様な「文武両道」の学校を作るビジョンを持たれ、唯一3年間クラス替えが無く、生徒の立場では、自由闊達な学校生活を送る事が出来良かったのです。しかし、東大合格者数が非常に少なく、その後学校運営の大きな方向転換があったと聞いています。3年間担任の中山右尚先生の常にお優しい顔に癒され、又「人間としての在り方」については厳しく指導頂いた事は、今でも記憶に残っています。

卒業後山口大学経済学部に入學はしたものの、高校生活の反動で勉強はせずテニス三昧でした。体育会系硬式庭球部に入部し、大いに青春を謳歌しました。

その後大阪で商社に就職しました。僅か1年半で父創業の橋本事務機に入社する為久留米に戻りました。親が医師であったり商売の家であると「跡を継がねば」というプレッシャーの中で大変悩んだ人は、私を含め周囲にも沢山います。私は、会社を継いだからには如何に継続・発展させるかを第一義に考え、人生を送ってきた様に思います。同じ様に地元で跡継ぎとなった同期の友人達(内藤主税君、杉寛司君、池田稔君、武藤邦弘君)とは家族ぐるみの付き合いが今でも続いています。

長年、地元で同窓会活動に参加して良かった事は、先輩後輩を問わず「同窓生」という事でお世話になり、刺激しあってきた事であり、その事に改めて感謝致します。

仕事上は、メーカーの商品を仕入販売・メンテする事務機業界に身を置いて営業・経営をする中で、激変する社会変化を捉え「変化対応力」を身に付けて『知行合一』の精神で会社を継続させ、「価格決定権が無ければ生き残れない」と考え「ファブレスメーカー」に成る事も目標でした。一例として久留米餅を「イノベーションしたブラインドヤタペストリー」を制作・設置しました。又17年前より「遠州茶道宗家十三世小堀宗実家元」の御指導を頂き、茶道の稽古に励み、そのご縁で「多用途自動昇降デスク・流麗」の開発・製造をして現在拡販中です。(広告P.76)『オフィスでも心を癒す 茶の湯かな』

最後に、私自身も会社も健康であり、少しでも「世の為人の為」になる活動を続け、世界に誇るべき日本の文化(特に茶道)の素晴らしさを「流麗」を通じて発信できれば幸いです。



前列左から杉寛司君、筆者、内藤主税君、池田稔君



むとうくにひろ
武藤邦弘 (20回生)

経歴

久大附設高校20回生
1953年熊本市にて出生。生後3か月で久留米市に転居。
父親が久留米市の文化街で眼科医院を開業していたため、文化街の真ん中で育つ。
久留米大学医学部卒業(1979年)
久留米大学神経精神科入局
国立肥前療養所(現・肥前精神医療センター)勤務
久留米市内の病院に勤務の後
1994年 精神科 心療内科 武藤クリニック開業

久留米育ち

私は、西鉄久留米駅のそばで、精神科、心療内科のクリニックを開業しています。4月3日生まれですから、学年ではおそらく誕生日が一番早く、小さいころから身体も態度も大きかったのではないかと反省しています。日吉小学校、城南中学から、附設高校、久留米大学に進んだため、自宅から半径5km以内で過ごしてきました。おまけに西鉄駅近くで開業したので、このまま久留米で一生を終えることは間違いありません。なんだかつまらない人生のようにも思えますが、この歳になると、これはこれでよかったのかなと思います。髭をはやして、サングラスなどして町を歩いても、「オッ、武藤君」と小学校時代の同級生から声をかけられます。「なんでわかったと？」と言うと「小さいころと変わっとらんもん」と言われ、うれしいやら悲しいやら。こうやって、小さいころからの仲間囲まれて生活できているというのも幸せなのかもしれません。

附設高校も、卒業後は、こんなに近いのにあまり足を踏み入れる機会がありません。昨今の母校の発展ぶりを見聞きするにつれ大変誇らしく思っています。翻って、我々20回生の青春時代を思い出すと、よくぞあんなに自由で野放しの高校生活を送らせてもらったものだと思います(あくまで個人の感想です)。「60年代後半から70年代」という時代もあったのでしょうか。映画、音楽、文学に傾倒しました。私が精神科を選んだのもその流れがあったからかもしれません。三島由紀夫の事件も学校で知った者もいれば、喫茶店で知ったという者もいた始末。今に連なる文化祭を始めたのも20回生だったのではないかと記憶しています(間違っていたらごめんさい)。同じクラスの松行真門君(現在小児科医)の演出で、安部公房の戯曲を上演したように思います。女性の出演者がいないので、私が某女学院の演劇部に出演依頼に出掛けましたが、玄関先で一蹴されたのを覚えています。サッカーも盛んでしたが当時は高体連に加入していないとかで対外試合はなかったと思います。後に同窓会で、古田哲先生が「君たちを旧制高校のようにと自由にさせたのは間違いだった」としみじみつぶやかれましたが、私たちは感謝の気持ちしかありません。

今の仕事も当分やめられそうにありません。これからも地元にしっかり根付いて、ご隠居と呼ばれる日を楽しみに毎日を過ごしたいと思っております。



左から稲益守、筆者、木下宏太郎

もり あき ひこ
森 明彦 (29回生)

久留米在住

メール
akihiko.mori.jh6jnw@gmail.com



29回生還暦同窓会を 久留米で開催しました

29回生、森明彦と申します。2023年2月11日(土)「久留米大学附設高等学校29回生還暦同窓会」を行いましたので報告します。会場は久留米市のホテルマリターレ創世で、ゲストに古賀啓資先生、中島健治先生(21回生)を迎え、29回生のリアル参加者34名、Web参加者3名でした。

還暦同窓会を計画した成り行きですが、2018年(平成30年)に定期総会の幹事回生を29回生(当時56才)が務めた後、打ち上げの席で「還暦同窓会どうする?」という話のなか“久留米でやりたい”という気持ちがあったので久留米在住の稲益守(29回生)幹事長、森企画でとりあえず役を決めました。それから4年、2022年7月ごろ「還暦同窓会は?」と問いかけがあって、ちょうどコロナ6波が収束したころだったのですが、正直「やっていいのか、わるいのか?、来れない立場の者も、医者もおろうしも無理だろ……」と言う気持ちでした。そこで、恩師に「還暦同窓会やろうと思っているのですが出席いかがですか?」と問い合わせの電話をかけ、その時先生の近況を伺った時「これは今やらなければだめだ……」という気持ちになりました。コロナ下で準備の打ち合わせにもなかなか集まらない状況下で、4年前の総会準備の時ある程度集まっていたFacebookの「29回生」のグループをメインの掲示板として活用し、「やるかどうか?どの日にやるか?」等の打ち合わせ、アンケート、中間報告はその都度上げて報告、告知し、意見や賛同をもらうように進めました。

記念品については「喜多屋の酒で! 西原(和美)先生の絵で!」という稲益幹事長の一言で決まりました。29回生の木下宏太郎君は八女の蔵元「喜多屋」の社長です。特別ラベルを作るにあたり自分が持っている西原

先生の絵を先生のところへ持って行って許可をいただき、酒を喜多屋純米酒で準備しました。当日の同窓会でも、また当日来れないメンバーにも同じ「還暦記念 祝い酒」の盃を酌み交わしてもらいたい思いから、ネット購入用のシークレットページのアドレスを喜多屋の営業部に作っていただき、そのURLをFacebookの「29回生」のプライベートグループと29回



生メールに上げ、受注業務と製造と在庫管理と発送を喜多屋さんに協力いただきました。当日の手土産分に通販分を加えトータル123本デリバリーでき、複数注文くれるメンバーも多々いました。



還暦同窓会をやる際にぜひやりたかったのが“附設訪問ツアー”です。創世さんにバスを出していただいたので明治通りに集合したメンバーを附設に連れて行って、現在の附設中学の教頭の29回生の藤吉博範先生に案内をお願いしました。校門で記念写真、“あの坂”を“たらたら歩いて上って”憩いの森の丸ベンチで記念写真、校内では合格者掲示板で仰天し、“思考廻廊の29回生パネル”の前で記念写真を撮りました。「思考廻廊」は29回生の乗富久哉君の設計です。還暦になってこの附設の場所に戻ってきて、自分たちのパネルの前に立つというのはぜひやりたかった事の一つです。



会場に戻ってから還暦同窓会スタート。記念撮影、来賓の先生方の挨拶をいただいた後、乾杯、Web参加者挨拶、メンバー近況報告、校歌斉唱、万歳三唱、という流れでした。ちなみに校歌斉唱のBGMは九州交響楽団のオケの音源を附設事務局からおかりしました（今はこういうのがあります）。会自体は“楽しいカオス”といった感じでしたがこれもコロナ下をふまえ2時間でまとめました。

先生方への記念品は“祝い酒”と当日の写真のアルバムと寄せ書きを当日こられた先生と来られなかった合原俊光先生(9回生)、西原先生、中学の時の担任の築取和紘先生に送りました。

久留米でやることにこだわり、コロナの影に悩まされながらの還暦同窓会でしたが、29回生メンバーの様々な協力で何とか開催できました。参加してくれた29回生に感謝してレポートを終わります。





赤池俊信先生

郡司(満留)真吾

(40回生 元3年A組)

回想『癒やし系金八先生』

赤池俊信先生(23回生)、こんにちは。赤池先生は、文系クラスの担任でしたね。丸い眼鏡に、つぶらな瞳。いつも、にこにこでしたね。指導教科は、日本史でしたね。赤池先生が提供してくれた日本史プリント、教科書に記載された情報以外にも、史実の裏話的なエピソードも盛り込んだプリント。私は、定期試験前、そのプリントをチェックペンで真っ赤に塗り、通学電車の往復で復習していました。赤池先生の授業は、声量も大きく、ときどき、自虐ネタも盛り込みながら、楽しくわいわいとして盛り上がりました。また、先生が出題する定期試験は、国公立及び私立どちらの大学入試にも対応可能な、客観問題や論文回答問題も含むオトクな内容でしたね。クラス担任としては、生徒に寄り添い、受験生の不安の声にも応えてくれましたね。学校行事にも積極的にかかわり、体育祭のときには、クラス仕様のTシャツにも袖を通していただけました。そんな、賢くて思いやりのある赤池先生、いつまでもお元気で、私たちを見守ってくださいますね。ではでは。



森上芳樹先生

森(竹之下)弘太

(40回生 元3年B組)

学校の外でも森上先生に救われた話

ひと気が無くなる程度に遅い時間の西鉄久留米駅で突然に何度も嘔吐してしまい、全く改善の気配が無く「家に帰れない」と軽く絶望し、藁をも掴む思いで学校に電話をしたところ、担任だった森上芳樹先生が駆けつけてくれました。病院に運んで頂き【周期性嘔吐症】と診断され、点滴を打って漸く人心地が付きました。教室で毎日顔を合わせるといっても、学校生活をただ無難に乗り切ろうとしているだけの生徒としては、先生の人間性に触れることなど皆無で、夜と言ってもいい時間に振り回したことに申し訳なさを感じるばかりだったのですが…“線の細い子供が罹患しやすい症状”との説明に「お前は意外と繊細だからなあ」と、いつも通りの笑顔ひとつで済ませて下さいました。私が辛うじて卒業できて何とか社会生活を遅れているのは、間違いなく森上先生の観察眼と、寛大な教育方針と、業務時間外の出来事にも対応して下さる器の大きさに救われていたお陰です。



中島健治先生

岡 泰宏
(40回生 元3年C組)

中島健治式数学の世界

中島健治先生(21回生)の数学には「解けて当たり前、どうやって解くかが数学だ」というメッセージが言外に滲んでいたように思う。

もし数学がフィギュアスケートのように芸術点が加味される競技であったなら、ナカケンの薫陶を受けた生徒こそ水を得た魚のように答案用紙が踊りだすに違いない。

板書の1文字1文字は、僭越ながら読みづらくはない程度だが、結果的に美しい。

何度かテニスで対戦させてもらったが、お世辞にも華麗なフォームというわけではなかったが、一度も勝たせてもらったことはなかった。手加減、容赦一切なし。バレーボールでもそうだ。セッター牟田和彦先生が上げたボールをナカケンが打つそしてほくそ笑む。教員チームと対戦しているというよりも21回生対40回生の戦いだった。

ナカケンが大声で笑っているところを見たことがない。笑いは驚き的一种だとすれば、すべてが計算ずくなのだ。

我々が卒業後はマラソンに、今では100キロウォークに挑戦されているそうだ。一体どんな問題を解きながら歩いているのだろうか。いつかナカケンを大声で笑わせたい。



野上芳朗先生

齊藤高志
(40回生 元3年D組)

野上先生にお世話になった4年間

私は高校から附設に入学し、高校3年間と補習科1年間の計4年間で野上芳朗先生に担任して頂きました。当時から化学の研究を志していた私にとって、化学科の野上先生に附設時代をすべて担任して頂いたことには妙な縁を感じます。

我々が高校時代の先生は、時に腕を組んで困った顔をされることもありましたが生意気盛りの生徒に対し怒られることは滅多になく、孫をみるお爺ちゃんのような温かい目でクラスに話しかけられるお姿が非常に印象的でした。また放課後の教室掃除に毎日参加され、生徒とコミュニケーションをとられていたお姿や、教室の壇上で首をかしげて仁王立ちされていたお姿、特徴的な口調でよく「いかーんね。」とおっしゃられていたこと等を思い出します。

最近伺った話ですが、野上先生は附設の教員にはボーナスがないと奥様に偽り、ボーナスの多くを費やして教員同士の飲み会を毎月催し、教員同士の交流にも努めていらっしゃったそうです。当時気付くことが出来なかった、教育にとっても熱い野上先生の一面を知り、先生に4年間ご指導いただいたこと改めて感謝いたします。この秋に東京で開催される同窓会の席で野上先生の思い出を先生方や同窓生の皆様とお話できることを楽しみにしております。

定期総会報告

副会長 古賀善彦 (23回生)

令和5年7月16日(日)、ソラリア西鉄ホテル福岡(福岡市中央区天神)にて定期総会が開催され、全ての議案が承認されましたので、ここにご報告申し上げます。

◆令和5年度定期総会

物故者黙祷、吉田清隆会長(23回生)の挨拶に引き続き、以下の議題について報告がなされるとともに、決議事項につき審議を経て承認されました。

議長：栗木康幸理事東京支部長(21回生)

議題1 報告事項

(1) 本部活動報告および(2) 支部活動報告

中村和徳副会長(27回生)

- 令和4年度の理事評議員会は5月29日(日)に久留米シティプラザにて、また同窓会定期総会は7月17日(日)にソラリア西鉄ホテル福岡にて、コロナが落ち着いたことを受け、懇親会なしのリアル開催を実施。
- 本部活動の中心となる正副会長会議については、福岡・東京の支部長、幹事団も参加する拡大正副会長会議を原則毎月第2土曜日の午後2時間を使って合計9回開催。
- 福岡・東京で開催されている回生代表世話人会に本部役員も参加し、同窓会活動の基本となる①WEB名簿の充実化、②終身会費納入、③同窓会報広告掲載、などについて依頼。
- 今後は、75周年記念事業活動が中心になり重複する部分も出てくる事から、活動の在り方の一部見直しも検討しながら進めて参る所存。
- 支部活動報告については、コロナが収まったことを受け、少しずつリアル活動が増えてきており、福岡、東京、関西、中部、熊本の5支部で支部総会がリアル開催となった。75周年記念事業の成功のためにも、今後各支部との連携を深めて参る所存。

次ページご参照

(3) 広報委員会報告

勝連治副会長(33回生)

次ページご参照

(4) 思考廻廊推進委員会報告

飯沼良介副会長(36回生)

次ページご参照

議題2 決議事項

第1号議案 令和4年度決算案

田中英治副会長(23回生)

説明については39ページご参照

令和4年度決算案の監査報告については、矢加部浩一監事(25回生)より、一瀬徹夫監事(13回生)とともに監査を行った結果、その内容は妥当と認められるとの

説明があった。

第2号議案 令和5年度予算案

田中英治副会長(23回生)

説明については39ページご参照

第3号議案 附設高校75周年、附設中学55周年記念事業募金活動について

吉田清隆会長(23回生)

高校75周年・中学55周年記念事業に向け「同窓会として記念事業に協力すると共に、同窓会が募金活動の中心的役割を果たす、また、目標は1億円を目指す」ということを本日決議いただき、募金活動へのはずみをつけたいと考えている。

附設高校は1950年(昭和25年)に創立され、2025年に75周年を迎える。また、附設高校が御井校舎から野中校舎に移転した翌年、1969年(昭和44年)には中学校が併設され、55年が経過する。

令和4年4月8日に学校、後援会、同窓会からなる記念事業委員会を発足させた。同窓会側の委員は執行部役員にて構成し、募金委員会では東京支部長や福岡支部長にも加わってもらっているが、必要に応じ委員の増員を行う予定。

母校と久留米大学の協議の結果、第二体育館と特別教室棟の建設は大学の事業費によって実施され、校舎建設以外の記念事業は募金を財源に行うことが決定された。校舎建設以外の記念事業については約1億円を見込み、「憩いの森」の整備、第2体育館への緞帳の寄贈、第2グラウンドにあるテニス部部室の建て替え、外灯の整備、記念式典や祝賀会、シンポジウムを開催し、記念誌の編纂等を計画。久留米大学の事業費では実施が難しいこうした校内設備の充実化を募金で賄おうというもの。

募金目標額は記念事業の見積額を考慮し1億円に設定。1口1万円として、目安は、個人は2口以上、事業者・法人・組織団体等は10口以上。目安額に満たない少額の募金も歓迎する。

町田校長および記念事業委員会からの「募金の趣意書」を受けて、同窓会としてあらためて同窓会会員の皆様に募金協力をお願いをする。本日の定期総会で決議いただき、募金活動の機運を高めたいと考える次第である。

第4号議案 本部役員、理事、評議員の交代など

本部役員の一瀬徹夫監事(13回生)の辞意、後任として古澤生敏さん(15回生)を推薦(定期的役員改選の期中での交代となることから、任期は1年間)。校内理事は町田健校長(23回生)と國吉房次教諭(41回生)へ交代。原田稔理事(26回生、東京支部)から退任の申し出があった。

令和4年度 本部・支部活動報告

副会長 中村和徳 (27回生)

【本部】

2022年

- 4月8日(金) 母校中高入学式出席・教育振興基金寄付金贈呈式・75周年記念事業委員会(第1回)(@母校)
- 4月16日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 5月15日(日) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 5月27日(金) 久留米大学評議員会(高橋顧問出席)
- 5月29日(日) 同窓会会長選考委員会・理事評議員会開催(@久留米シティプラザ大会議室)
- 7月2日(土) 九州大学病院キャンパス附設会(@九州大学医学部百年講堂、古賀副会長・島添副会長参加、町田校長が講演)
- 7月9日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 7月15日(金) 75周年記念事業委員会(第2回)(@母校)
- 7月17日(日) 拡大正副会長会議(ソラリア西鉄ホテル福岡)定期総会(@ソラリア西鉄ホテル福岡開催+Youtube動画配信)
- 8月31日(水) 『同窓会報第29号』発刊、送付
- 9月10日(土) 拡大正副会長会議(会議室利用+ZOOM)
- 10月15日(土) 拡大正副会長会議(会議室利用+ZOOM)
- 10月22日(土) 第1回在校生のための進路講座(@母校、古賀副会長参加)
- 10月28日(金) 久留米大学評議員会(臨時)(高橋顧問出席)
- 11月12日(土) 南筑高校100周年記念祝賀会(@翠香園ホテル、吉田会長出席)
- 11月19日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 11月26日(土) 第2回在校生のための進路講座(@母校)
- 12月1日(木) 久留米大学本部にて永田理事長・内村学長を表敬訪問(吉田会長・田中副会長)
- 12月2日(金) 75周年事業委員会(第3回)(@母校)
- 12月10日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)

2023年

- 1月14日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 2月11日(土) 拡大正副会長会議(メディア総研およびZOOMにて開催)
- 3月1日(水) 母校卒業式(吉田会長・島添副会長参列、同窓会より卒業記念品(フォトフレーム付き電波時計)贈呈)
- 3月24日(金) 久留米大学評議員会(定例)(高橋顧問出席)

【支部(含むOB関連行事)】

2022年

- 6月4日(土) 東京回生代表世話人会(@メディア総研+ZOOM)
- 7月17日(日) 福岡支部総会(ソラリア西鉄ホテル福岡にてリアル開催+Youtube動画配信)
- 8月6日(土) 関西支部総会(リアル開催、吉田会長・中村副会長出席)
- 10月2日(日) 熊本支部総会(リアル開催、古賀副会長・中村副会長出席、吉田会長オンライン出席)
- 10月15日(土) 東京支部総会(リアル開催+動画配信)
- 11月12日(土) 長崎支部例会(オンライン)
- 11月13日(日) 長崎支部ゴルフコンペ(大村湾カントリー倶楽部)
- 11月26日(土) 中部支部総会(リアル開催、吉田会長・中村副会長出席)
- 12月2日(金) 有明OB会
- 12月10日(土) 福岡回生代表世話人会(リアル開催@ソラリア西鉄ホテル福岡)
- 12月10日(土) 東京回生代表世話人会(リアル開催@新橋亭)

2023年

- 2月4日(土) 附設塾開催(講師:21回生青沼隆之氏)
- 3月18日(土) 熊本支部追い出し会(リアル開催、吉田会長・古賀副会長出席)

広報委員会活動報告

副会長 勝連 治 (33回生)

1. 令和4年8月に同窓会報第29号を発刊。国内外の各地で活躍する同窓会員に寄稿を依頼し、1万人弱の同窓生に会報を送付。
2. 同窓会のホームページにお知らせならびに支部便りを掲載し、同窓会活動の迅速な告知に注力。
3. 本部活動・支部活動・各回生の活動を支援する目的で同窓会が取得したZOOMアカウントの、会員による利用が可

能な旨をホームページならびに同窓会報で告知。アカウントを管理し、福岡・東京・熊本の各支部や各回生などが総会やミーティング等で利用。

4. 久留米大学広報誌「EQUAL」への、同窓会から教育振興基金への寄付についての記事の掲載を依頼し、同窓会の活動をアピール。

思考廻廊推進委員会活動報告

副会長 飯沼良介 (36回生)

- ・2025年の75周年事業の一環として、現在歯抜けになっている回生(38・41・46・48・50・51・52・53・54・55)の10枚と新たに作成の対象となる61~73回生13枚、計23枚、思考廻廊の陶板を作成する予定。

- ・第一次募集を2023年12月末、第二次募集を2024年6月末として、対象回生からデザインを募集。
- ・2025年の式典の際には、73回生までのすべての陶板が掲載されることを目指す。

令和4年度 一般会計収支決算書

副会長 田中英治 (23回生)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	864,000	860,000	△ 4,000	4,000円×215名
会費(年会費)	3,720,000	3,686,500	△ 33,500	500円×613名×12ヶ月、500円×1名×7ヶ月 500円×1名×4ヶ月、500円×3名×2ヶ月
終身会費新制度分	5,952,000	5,699,200	△ 252,800	800円×613名×12ヶ月、800円×1名×7ヶ月 800円×1名×4ヶ月、800円×3名×2ヶ月 △返還800円×249ヶ月(前年度転退学者12名分)
広告料協賛金収入	6,000,000	7,547,500	1,547,500	
寄付金	0	84,500	84,500	
預り金	0	152,000	152,000	71回生思考廻廊預り金
雑収入	0	130	130	
終身会費旧制度分	600,000	4,700,000	4,100,000	3万円×156名および分納者の完納2万×1名
当期収入合計	17,136,000	22,729,830	5,593,830	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,887,200	1,790,489	△ 96,711	
事務消耗品	10,000	7,765	△ 2,235	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	100,000	0	△ 100,000	
東京事務所費	607,200	607,200	0	東京事務所賃借料
通信費	110,000	113,724	3,724	インターネット利用料 Zoomアカウント利用料 切手他
印刷費	30,000	38,700	8,700	71回生会員カード 名刺 封筒 払込取扱票印字サービス
事務雑費	30,000	23,100	△ 6,900	
2. 事業費	13,630,000	14,583,883	953,883	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	400,000	517,687	117,687	
正副会長会議費	150,000	152,500	2,500	
総会関連支援費	200,000	397,375	197,375	
支部総会関連(旅費)	100,000	228,884	128,884	
(寸志)	180,000	150,000	△ 30,000	福岡・関西・熊本・東京・中部支部
支部分配金	4,800,000	6,038,000	1,238,000	福岡・東京支部 各2,914,000円 熊本支部 120,000円 中四国支部 90,000円
回生世話人会議	500,000	313,000	△ 187,000	東京支部 153,000円 福岡支部 160,000円
役員活動費	400,000	198,240	△ 201,760	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	420,450	△ 29,550	文化祭援助 300,000円 体育祭援助 120,450円
部活援助費	390,000	209,999	△ 180,001	サッカー部 30,000円 柔道部 30,000円 合唱部 30,000円 美術部 29,999円 軟式野球部 30,000円 演劇部 30,000円 バスケット部 30,000円
卒業記念品代	360,000	359,362	△ 638	フォトフレーム付き電波時計 191個 クラス写真 190枚
進路指導費	500,000	136,000	△ 364,000	卒業生模擬試験経費援助 136,000円
新人歓迎会補助	100,000	56,000	△ 44,000	熊本支部 40,000円 関西支部 16,000円
就職セミナー費用	250,000	0	△ 250,000	オンラインにて開催
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	650,000	646,800	△ 3,200	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	4,000,000	4,452,551	452,551	会報誌(10,000部)の作成代、CPP袋印刷、発送料 会報広告募集費用
思考廻廊関連引当	100,000	252,000	152,000	定期預金にて積立中(152,000円は71回生からの預り金)
慶弔費	50,000	16,336	△ 33,664	
事業費雑費	50,000	38,699	△ 11,301	71回生卒業アルバム 振込手数料
3. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
3.2 母校支援費	0	0	0	
3.3 75周年事業活動費	1,000,000	433,303	△ 566,697	
当期支出合計	17,517,200	16,807,675	△ 709,525	
当期収支差額	△ 381,200	5,922,155	6,303,355	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 600,000	△ 4,700,000	△ 4,100,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	7,511,166	7,511,166		
次年度繰越金	6,529,966	8,733,321	2,203,355	

在籍数／	1年	218名	入会金なし3名	8月より転学1名	11月より転学1名
	2年	209名	6月より転学2名		
	3年	193名	6月より転退学3名(内、2名は年度当初より会費なし)		
合計		618名			

財産目録	
普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	8,282,206円
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	449,035円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,080円(下記定期預金の利息累計)
小計	8,733,321円(※補記1 当該金額が次年度繰越金と一致)
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	3,252,000円(引当金累計)(※補記2 思考廻廊関連1,252千円、名簿発行関連2,000千円)
合計	11,985,321円

令和4年度 特別会計収支決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

〔収入の部〕	(円)	〔支出の部〕	(円)	財産目録	
前年度繰越金	181,299,884	貸金庫使用料	13,200	普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	9,873,881円
(30,000円×156名)				定期預金(筑邦銀行 本店営業部)	156,091,063円
一般会計より繰入	20,000円×1名)	次年度繰越金	185,989,710	定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	20,024,766円
	4,700,000			振替口座(ゆうちょ銀行)	0円
雑収入	3,026	計	186,002,910	計	185,989,710円
計	186,002,910				

終身会費納入状況

(カッコ内は令和4年度中に完納された方の人数です)

2023年3月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	68 (6)	195名 35%	33	179 (1)	209名 86%	49	153 (1)	201名 76%
2	80	141名 57%	18	66 (6)	195名 34%	34	186 (1)	217名 86%	50	135	200名 68%
3	68 (1)	135名 50%	19	92 (18)	205名 45%	35	159	209名 76%	51	157	202名 78%
4	78 (3)	153名 51%	20	57 (2)	209名 27%	36	177 (1)	209名 85%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	89 (10)	211名 42%	37	161	199名 81%	53	164 (1)	199名 82%
6	71 (4)	159名 45%	22	87 (8)	229名 38%	38	158 (1)	210名 75%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	83 (15)	183名 45%	39	168 (1)	202名 83%	55	137 (1)	197名 70%
8	85 (1)	171名 50%	24	82 (8)	214名 38%	40	124 (1)	201名 62%	56	139	205名 68%
9	67 (3)	149名 45%	25	108 (8)	220名 49%	41	91 (2)	205名 44%	57	145 (1)	199名 73%
10	78 (2)	150名 52%	26	167 (1)	223名 75%	42	109 (1)	206名 53%	58	151 (4)	198名 76%
11	65 (2)	159名 41%	27	160 (3)	201名 80%	43	111 (2)	208名 53%	59	155 (6)	210名 74%
12	59	154名 38%	28	175 (1)	217名 81%	44	118	197名 60%	60	131	199名 66%
13	77 (2)	165名 47%	29	161 (1)	215名 75%	45	133	194名 69%	61	153 (1)	201名 76%
14	59 (5)	145名 41%	30	177	212名 83%	46	131 (2)	195名 67%	62	141	203名 69%
15	56 (4)	161名 35%	31	160	217名 74%	47	120 (1)	194名 62%	63	146 (5)	199名 73%
16	62 (4)	208名 30%	32	176 (2)	224名 79%	48	138 (2)	197名 70%	64	135 (2)	200名 68%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費 会計報告	完納会員(3万円) 7,564(157)名	分納会員(2万円) 10(0)名	分納会員(1万円) 51(1)名
-----------------	--------------------------	---------------------	---------------------


監事の報告書

事務局より提出された令和4年度一般会計収支決算書及び令和4年度特別会計収支決算書並びに関係帳簿、書類を監査しました結果、その内容は妥当と認めます。

令和5年5月24日

同窓会監事

氏名 一瀬 徹夫 

氏名 矢加部 浩一 

令和4年度決算案・5年度予算案の補足説明

●令和4年度一般会計決算

当初赤字予算であったが、新型コロナウイルスの影響が残っており多くの定期的事業のリアル開催ができずに、結果的に黒字となった。

○収入の部

- ・ 広告協賛金については、今年度も幹事学年（福岡支部33回生・東京支部39回生）の努力により前年実績を上回る収入となった。
- ・ 終身会費旧制度分は、未払会員へ送付した会報に納入お願い文書を同封したことで会員相互の口コミ等の効果で470万円と当初予算を大幅に上回る納付実績となった。

○支出の部

- ・ 定期的事業の支出予算が消化不良となったが、その中でも理事評議員会・総会・支部総会等などリアル開催をすることができ（懇親会は見送り）、その部分は予算超過した。

●令和4年度特別会計決算

上記一般会計決算の収入でも記した通り終身会費旧制度分の納入金額が470万円となり全額を特別会計に振り替えた。今後も継続的に納入率向上に努めて行く所存。

●令和5年度予算

- ・ 物価上昇に伴い定期的事業のリアル開催を始めすべての経費において増加が予想されて、実質

赤字予算となった。特に理事評議員会・総会等そして75周年事業活動費などの経費には多くを旅費が含まれるため、これについては増額で予算を組んだ。

- ・ その中で75周年事業活動費に充てるために、名簿関連の積立金200万円を一般会計の雑収入として繰り入れた。この積立金は、紙ベースの名簿作成用に積立てていたものであったが、ウェブ名簿に移行した現在では使用目的が不明確になっていて現在積立は行われていない。
- ・ 広告協賛金収入の配分を見直して本部・福岡支部・東京支部を各三分の一ずつとして、他支部への配分は本部で負担するものとした。

令和5年度 一般会計収支予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(円)

費目	令和4年度決算額	令和5年度予算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	860,000	880,000	20,000	
会費(年会費)	3,686,500	3,700,000	13,500	
終身会費新制度分	5,699,200	5,700,000	800	
広告料協賛金収入	7,547,500	7,200,000	△ 347,500	
寄付金	84,500	0	△ 84,500	
預り金	152,000	0	△ 152,000	
雑収入	130	100	△ 30	
雑収入(名簿発行関連積立から振替)		2,000,000	2,000,000	
終身会費旧制度分	4,700,000	2,000,000	△ 2,700,000	
当期収入合計	22,729,830	21,480,100	△ 1,249,730	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,790,489	1,797,200	6,711	
事務消耗品	7,765	10,000	2,235	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
東京事務所費	607,200	607,200	0	東京事務所賃借料
通信費	113,724	120,000	6,276	インターネット利用料 Zoomアカウント利用料 切手他
印刷費	38,700	30,000	△ 8,700	72回生会員カード
事務雑費	23,100	30,000	6,900	
2. 事業費	14,583,883	15,586,800	1,002,917	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	517,687	700,000	182,313	
正副会長会議費	152,500	200,000	47,500	
総会関連支援費	397,375	400,000	2,625	
支部総会関連(旅費)	228,884	300,000	71,116	
(寸志)	150,000	150,000	0	
支部分配金	6,038,000	4,800,000	△ 1,238,000	広告協賛金収入(福岡・東京両支部各1/3)
回生世話人会費	313,000	700,000	387,000	
役員活動費	198,240	400,000	201,760	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	420,450	450,000	29,550	
部活動援助費	209,999	390,000	180,001	
卒業記念品代	359,362	400,000	40,638	
進路指導費	136,000	500,000	364,000	卒業生模擬試験経費援助
新人歓迎会補助	56,000	100,000	44,000	
就職セミナー費用	0	250,000	250,000	
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	646,800	646,800	0	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	4,452,551	5,000,000	547,449	
思考廻廊関連引当	252,000	100,000	△ 152,000	定期預金にて積立中
慶弔費	16,336	50,000	33,664	
事業費雑費	38,699	50,000	11,301	72回生卒業アルバム・振込手数料等
3. 予備費	0	500,000	500,000	
3.2 母校支援費	0	0	0	
3.3 75周年事業活動費	433,303	2,000,000	1,566,697	
当期支出合計	16,807,675	19,884,000	3,076,325	
当期収支差額	5,922,155	1,596,100	△ 4,326,055	
4. 特別会計へ繰入(繰出)				
△ 4,700,000	△ 2,000,000	2,700,000	2,700,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	7,511,166	8,733,321	1,222,155	
次年度繰越金	8,733,321	8,329,421	△ 403,900	

久留米大学附設高等学校同窓会 令和4年・5年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生
4	東京	19	高橋友作

会長			
	東京	23	吉田清隆

副会長			
1	福岡	23	古賀善彦
2	福岡	23	田中英治
3	福岡	25	島添隆雄
4	東京	27	中村和徳
5	東京	33	勝連治
6	東京	36	飯沼良介

理事			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
4	東京	19	小田恵介
5	福岡	19	天本敬吾
6	北海道	20	西見寿博
7	福岡	20	橋本和幸
8	東京	20	安部政信
9	東京	21	栗木康幸
10	関西	21	甲斐田郁夫
11	東京	21	砂場泰浩
12	福岡	22	松雪恵津男
13	東京	22	中村尚昭
14	佐賀	22	志田正典
15	福岡	26	実藤光二郎
16	東京	28	高木裕康
17	熊本	30	西芳寛
18	長崎	32	山縣雅義
19	福岡	34	秋本丈司
※20	校内	23	町田健
※21	校内	41	國吉房次

監事			
※1	福岡	15	古澤生敏
2	福岡	25	矢加部浩一

支部長			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
※4	熊本	17	砥上幸一郎
5	大分	19	藤原公司郎
6	北海道	20	西見寿博
7	関西	21	甲斐田郁夫
8	東京	21	栗木康幸
9	佐賀	22	志田正典
10	長崎	24	安武亨
11	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	4	丸林茂夫
4	福岡	8	中村晃
5	福岡	11	重永征廣
6	福岡	13	宮本祐一
7	福岡	15	平田三郎
8	福岡	16	中野博
9	山口	16	小野康行
10	熊本	17	砥上幸一郎
11	福岡	17	武田由照
12	福岡	18	村岡和彦
13	福岡	19	横山晴明
14	東京	20	山下伸弘
15	関西	20	山本喜伸
16	福岡	21	小林隆利
17	福岡	21	林公彦
18	熊本	22	片淵秀隆
19	福岡	22	山口博徳
20	関西	24	中路秀宏
21	福岡	25	宮原信孝
22	福岡	25	川口武壽
23	福岡	25	山口佳秀
24	福岡	26	藤田幸也
25	福岡	27	執行謙二
26	福岡	27	佐々木郁夫
27	福岡	28	吉本幸治
28	中四国	28	田代聡
29	中部	29	荒巻卓博
30	福岡	29	森明彦
31	東京	29	日高雄三郎
32	福岡	30	尾籠博光
33	東京	30	坂本格
34	福岡	31	竹下正敏
35	福岡	31	森田昇
36	佐賀	31	小林元太
37	福岡	34	永田八栄
38	佐賀	34	中里栄介
39	長崎	34	松藤祐次郎
40	東京	35	高尾野健
41	東京	36	諸岡健雄
42	東京	38	高井良輔
43	福岡	39	古賀篤
44	北海道	41	草場鉄周
45	福岡	41	川野武志
46	福岡	42	楠田大蔵
47	東京	43	深野道成
48	福岡	45	橋本太一
49	中四国	45	関謙太
50	東京	47	浅枝謙太
51	東京	47	中嶋雅宏
52	東京	50	山口雅彦
53	東京	50	大津良太
54	東京	50	福島智史
55	東京	57	竹下知宏
56	東京	59	尾家杏奈
57	東京	60	岩崎里子
58	関西	61	佐伯洋輔
59	関西	64	廣田律

※は令和4年の定期総会以降に就任

(敬称略)

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人				
回生	氏名			
1				
2	石橋義昭中村幸孝	橋好太郎大場清孝	昭二豊福秀孝	中豊福秀孝
3	安恒俊野	順二治高木俊夫	野田尚一	小吹大兼督鶴史雄
4	日野	順二治高木俊夫	野田尚一	小吹大兼督鶴史雄
5	関野	順二治高木俊夫	野田尚一	小吹大兼督鶴史雄
6	野田	尚一正豊喜明中重永	田尚一	小吹大兼督鶴史雄
7	松本保	正豊喜明中重永	田尚一	小吹大兼督鶴史雄
8	近藤	英喜明中重永	田尚一	小吹大兼督鶴史雄
9	城戸	英喜明中重永	田尚一	小吹大兼督鶴史雄
10	橋本	克己裕長谷川房生	本克己	裕長谷川房生
11	今里	克己裕長谷川房生	本克己	裕長谷川房生
12	梅野	正裕長谷川房生	野正	裕長谷川房生
13	一瀬	徹誠也古澤生敏	一瀬徹	誠也古澤生敏
14	大藤	英二朗福山明	大藤英二	朗福山明
15	福井	英二朗福山明	大藤英二	朗福山明
16	中河	原哲朗福山明	中河原哲	朗福山明
17	赤村	和彦山口浩生	赤村和	彦山口浩生
18	村岡	和彦山口浩生	村岡和	彦山口浩生
19	横山	晴明山武藤弘光	横山晴	明山武藤弘光
20	橋本	和幸史高島惠津男	橋本和	幸史高島惠津男
21	一ノ瀬	元史高島惠津男	一ノ瀬元	史高島惠津男
22	古田	善彦江藤宏	古田善	彦江藤宏
23	古賀	善彦江藤宏	古賀善	彦江藤宏
24	山口	佳秀加部浩一	山口佳	秀加部浩一
25	美藤	光二郎新里祐一	美藤光	二郎新里祐一
26	佐々木	郁夫高岸智也	佐々木郁	夫高岸智也
27	江頭	修作岡村和彦	江頭修	作岡村和彦
28	猪飼	秀隆箱嶋敏尚	猪飼秀	隆箱嶋敏尚
29	佐藤	茂竹下政敏	佐藤茂	竹下政敏
30	森田	昇安永晋一郎	森田昇	安永晋一郎
31	坂田	敬安永晋一郎	坂田敬	安永晋一郎
32	枝國	源一郎渡邊曉	枝國源	一郎渡邊曉
33	秋本	丈司永田八栄	秋本丈	司永田八栄
34	津福	一宏松浦愛二	津福一	宏松浦愛二
35	野田	英一郎松浦愛二	野田英	一郎松浦愛二
36	平野	長暁小林要慈	平野長	暁小林要慈
37	富田	憲嗣宏古賀哲明渡邊信	富田憲	嗣宏古賀哲明渡邊信
38	田上	行孝幸志富永大蔵	田上行	孝幸志富永大蔵
39	川野	武志富永大蔵	川野武	志富永大蔵
40	中島	研楠田昌太	中島研	楠田昌太
41	陣内	幸史郎池田吉芝	陣内幸	史郎池田吉芝
42	本江	嘉将花吉道成	本江嘉	将花吉道成
43	岡本	慎太郎橋本道成	岡本慎	太郎橋本道成
44	出納	正樹小原尚利	出納正	樹小原尚利
45	熊谷	善昭山口剛弘	熊谷善	昭山口剛弘
46	北島	皓興山	北島皓	興山
47	森山	裕司亮	森山裕	司亮
48	熊丸	陽亮	熊丸陽	亮
49	植高	貴寛	植高貴	寛
50	千代	田明久池辺健太	千代田	明久池辺健太
51	佐藤	孝志服部幹	佐藤孝	志服部幹
52	橋本	智之雄	橋本智	之雄
53	井上	朝雄	井上朝	雄
54	岩尾	達和咲希代	岩尾達	和咲希代
55	足達	華代	足達華	代
56	山下	華代	山下華	代
57	二宮	彬村上龍之介	二宮彬	村上龍之介
58	笹栗	誠田中雄士	笹栗誠	田中雄士
59				
60	赤木	之乃	赤木之	乃
61				
62	富重	紀貴三溝稜人	富重紀	貴三溝稜人
63	松崎	広太	松崎広	太
64				
65	大石	竜太郎吉村宇世	大石竜	太郎吉村宇世
66				
67				
68				
69				
70				
71				

東京支部回生代表世話人				
回生	氏名			
1				
2	加藤勝文一郡透	藤隆昭憲	勝文一郡透	藤隆昭憲
3	野田昌憲	佐々木進	野田昌	憲佐々木進
4	柳	昌憲佐々木進	柳昌	憲佐々木進
5				
6	鹿毛剛	山ノ内盛光	鹿毛剛	山ノ内盛光
7	武藤正克之	大石弘利	武藤正	克之大石弘利
8	井樋英東戸澤真也	井樋英東	戸澤真也	井樋英東
9	星野信雄	稲田昌秀	星野信	雄稲田昌秀
10	佐伯信雄	二章	佐伯信	雄二章
11	橋本	二章	橋本	二章
12	林	山寿夫阿志賀雄二	林山	寿夫阿志賀雄二
13	楠田宙生	久保田	宙生	久保田
14				
15				
16				
17	中本祥一安永裕相	藏守俊昭宮本博幸	中本祥一	安永裕相
18	國友秀世高橋友作	安部政信	國友秀	世高橋友作
19	安部	政信	安部	政信
20	渡辺恵治孫村太吉	渡辺恵治	孫村太吉	渡辺恵治
21	中村尚昭	都合寛竹森信之	中村尚	昭都合寛竹森信之
22	吉田清隆	穂田宗隆板垣大樹	吉田清	隆穂田宗隆板垣大樹
23	橋本良幸二	篠原彰考	橋本良	幸二篠原彰考
24	田中浩一	篠原彰考	田中浩	一篠原彰考
25	古橋宏明	上羅豪古川幸稔	古橋宏	明上羅豪古川幸稔
26	高木裕康古賀秀雄	高木裕康	古賀秀	雄高木裕康古賀秀雄
27	日高雄三郎大口智文	唐澤達信坂本格	日高雄	三郎大口智文
28	北島誠也	大村和範松田聖路	北島誠	也大村和範松田聖路
29	内山修造佐藤正一末永之和治	木内大吉開部高士田中昭彦	内山修	造佐藤正一末永之和治
30	工藤宏記阿部高健渡邊順一郎	小宮山郁太郎高尾野健	工藤宏	記阿部高健渡邊順一郎
31	堀達也	真栄城正	堀達	也真栄城正
32	洞幸司松本義久	植木正光高井門成	洞幸	司松本義久
33	福山泰平古田雄介齋藤崇之	加藤寛児玉部任宏	福山泰	平古田雄介齋藤崇之
34	白木淳二相見周宣	清田陽司見満周宣	白木淳	二相見周宣
35	深野章山桂右	秋本晃伸	深野章	山桂右
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				

福岡支部職域代表世話人	
福岡市役所	
33回生	本村和也
九州電力	
37回生	平野長暁
西日本鉄道	
36回生	上野潔
福岡県庁	
38回生	豊村謙治
福岡銀行	
55回生	豊田晋司

東京支部職域代表世話人	
霞が関等附設英会	
21回生	青沼隆之

(敬称略)

令和4年度 進路講座感想集

1日目〔10月22日(土)実施分〕

番	ジャンル	氏名	回生	文理	講演テーマ
①	一般	吉開 章	33	文理	多文化共生社会づくりと、やさしい日本語 ～内なる国際化のための意識改革～
②	司法	中園浩一郎	33	文	裁判官の思考とスピリット
③	民間企業経営者	長野 能久	33	理	Excitingな半導体業界：日本初ものづくりでGlobalに挑戦
④	企業経営者	志水雄一郎	39	理	挑戦せよ。
⑤	医師	橋本 健吉	39	理	「外科医」への道 “The Way of the Surgeon”
⑥	官僚	次田 彰	39	理	「霞が関」で働くということ
⑦	大学教授／医師	岸 拓弥	39	理	Z世代のみんなと考えるこれからの医師キャリア ～なんでもあり～
⑧	医学	星野 有紀	56	理	脳神経内科ってどんな仕事？
⑨	コンサルティングファーム	大塚 綾乃	56	文理	戦略コンサルタントって何？



2日目〔11月26日(土)実施分〕

番	ジャンル	氏名	回生	文理	講演テーマ
①	医学／教育／経営	吉良 朋広	33	文理	病院だけが医師の職場ではありません
②	建築設計	村上 尚彌	33	理	建築家として生きる
③	教育／研究	西原 英治	33	理	公開天文台のお仕事
④	会計士	玉元 宏志	39	文	「クライアントに寄り添う会計事務所」を目指して
⑤	企業経営者〔元官僚〕	中村 健一	39	理	産業と政治と官との連携を通じ、 世界と地方をつなげ 地方の活力を高める
⑥	法律	田代 夕貴	56	文	法律家として理念を実現する
⑦	医学	大澤めぐみ	56	理	医師という職業選択、内科臨床医の仕事について
⑧	医学	江島有美香	56	理	へき地医療について
⑨	医学	平野七津美	56	理	放射線診断医の仕事、産業医科大学について



中園 浩一郎 先生 (33回生/福岡地方裁判所 部総括判事)

② 司法

裁判官の思考とスピリット

【講義の感想】

今回、福岡地方裁判所部総括判事である中園浩一郎先輩に話をさせていただきました。司法の道に進んだ経緯、理由や、裁判官の思考やスピリットなどの話を聞くことができました。私が特に面白いと感じた事は、中園先輩が実際に担当された事件を使って具体的に裁判官の判決を下す際の思考を教えていただいたことです。私は、裁判官は法律の条文が全てだと考えていると思っていましたが、実際には被告の人間性などをしっかり見極める、人間的な懐の深さも大事だということがわかりました。裁判官という職業について理解を深められる素晴らしい講演を聞いてとても良かったです。

文責：高1C 相島 悠吾



長野 能久 先生 (33回生/タワーパートナーズセミコンダクター株式会社 代表取締役社長COO [最高執行責任者])

③ 民間企業経営者

Excitingな半導体業界：日本初ものづくりでGlobalに挑戦

【講義の感想】

今では当たり前に使われているICカードの中に組み込まれている半導体の開発・製造に携わってこられたこと、現在では外資系企業のCOOとしてさまざまな国籍の人とともに働いていらっしゃるなどについて聞いた。将来、外資系企業に就職しなくとも、このグローバル化の世界にあって、いろいろな国籍の人と働く機会は少なからずあるだろうと思われる。この講話で聞いた話は、社会に出てから活かしたい。

文責：高1B 永長 久喜



志水 雄一郎

先生 (39回生/フォースタートアップス株式会社 代表取締役社長)

④ 企業経営者

挑戦せよ。

【講義の感想】

今回、志水雄一郎先輩の講演を拝聴させていただき、強い衝撃を受けた。テーマは『挑戦せよ』。今の日本は勤勉ではなくなり、このままでは世界での競争の中で負けてしまう。スタートアップ起業の大切さについて語られていた。進路について模索中の私にとって、今の状況など、様々なことを知ることができ、良い刺激となった。これから自分の無限の可能性を信じて、自分に何ができるのか考えていきたいと思う。

文責：高1E 春田 百合



星野 有紀

先生 (56回生/嬉野医療センター 医師)

⑧ 医学

脳神経内科ってどんな仕事？

【講義の感想】

この講演では、普段なかなかお世話になることはないが、急に利用することになるかもしれない「脳神経内科」について、お話を伺った。自分にとっては知らないことばかりだった。講演内では、具体的な例が多く交えられており、中でも19歳女性のケースは難病の病名宣告や、難しい治療と向き合いながら闘病する患者とのコミュニケーションなどが心に残った。医者というのは、単なる治療のみならず、心のケアも重要であることを、改めて実感した。また、専門の科ではなく

でも夜間の救急外来に対応するため、当番制で病院に泊まりこんだり、電話で呼ばれたら駆けつけられる状態にしておいたり、非常にハードな職種だと感じた。以前、星野先輩がお勤めの嬉野医療センターを利用したことがあり、若干の親しみをもって聞くことができた。私自身は医学の道に進むわけではないが、現代社会でのワークライフバランスの実現など、幅広い方面に通じるお話であったと思う。

文責：高1B 遠藤 亮太郎



中村 健一 先生 (39回生/株式会社 中村製紙所 中村園 代表取締役社長 [元・経済産業省])

⑤ 企業経営者 [元官僚]

産業と政治と官との連携を通じ、 世界と地方をつなげ 地方の活力を高める

【講義の感想】

今からの日本を救うためには、近頃の「物事の裏側の環境問題」(例えば、農業の環境負担)を見つける、地域やその人々のためにその問題を解決しよう力を尽くす(社会起業的)、そして、新しいルールをどんどん作り上げていくということの重要性を知ることができました。自分なりの人生を歩む基盤となる自分なりのキーワードを見つけるために、普段の会話や行動から今の社会への疑問を積み重ねていこうと思います。

文責：高1B 稲田 幸輝



田代 夕貴 先生 (56回生/西村あさひ法律事務所 弁護士)

⑥ 法律

法律家として理念を実現する

【講義の感想】

企業法務に対するイメージが大きく変化した。まず私はドラマ『SUITS』から弁護士に興味を持ったので、田代さんの行う条約に関わる仕事をするという選択肢があることに驚いた。そして田代さんの行動力には見習うべきものがあると思う。学生時代から海外

へ勉強に行き、様々な人や問題に出会って確固たる信念をもつようになられた田代さんの生き方を私は心から尊敬できる。自分の将来像はまだあやふやであるから、自分でアクションを起こしてやりたいことを決めたい。

文責：高1B 桑原 佑奈





三溝 稜人 (66回生)

九州大学医学部医学科6年

プロフィール

氏名；三溝 稜人

ふりがな；みつみぞ りょうと

回生；中学44回生、高校66回生

学歴；九州大学医学部医学科6年

連絡先；r.mitsumizo@icloud.com



田中真弓先生と



大学同期とベトナム旅行で



大学テニス部と



2022年九州大学病院キャンパス附設会

最近の大学生活

初めまして。中学44回生、高校66回生、現在九州大学医学部医学科6年の三溝稜人と申します。中学男子校最後の学年であり中高6年間寮生活をしてきたおかげで、未だに女性と話すときに緊張するという後遺症に悩まされながら、なんとか大学生活を送っております。

ここでは現在の九州大学での生活についてお話しさせていただきます。

コロナ禍が少し落ち着いたということもあり、最近は飲み会が開かれるようになりました。先日は田中真弓先生（元テニス部顧問）と65/66回生のテニス部員で飲む機会があり、中高どれだけ馬鹿なことをして真弓先生を困らせたか熱く語り合い、とても楽しい時間となりました。また、真弓先生が主催してくださった合宿でお世話になった10学年も上の先生と飲ませて頂くこともあり、附設テニス部の繋がりに感謝しています。ちなみに私達が通う馬出キャンパスは天神まで地下鉄で6分という場所にあり、終電を無くしても徒歩で歩いて帰れるという素晴らしいキャンパスとなっております。たまに深夜にコンビニに行くと、ミネラルウォーターのいろはすを片手に千鳥足で家に帰っていく友人を見かけることがあります。後々聞くと記憶がないと言っていて、人間にも帰巢本能があるのではと疑っています。

3月にはテニス部の同期3人とベトナムのハノイに行き、旧市街地やトレインストリート、ハロン湾を観光しました。歩道を歩いていると、ノーヘルの4人家族が1台のスクーターに乗って爆速で信号無視をしている光景を1日に30回は見られます。なんなら歩道も爆走しています。スリルを求める方はぜひベトナム旅行をお勧めします。現地の水道水で洗った歯ブラシを使ったからか全員お腹を壊し、朝の3時に4人仲良くホテルの部屋のトイレに並んだことは良い思い出です。

部活に関しては、先日4年ぶりに九山（九州山口医科学生体育大会）が長崎で開催されました。後輩たちが健闘し、準優勝という結果を取ることができました。学生OBだけでなく先生方にも応援頂き、一つの目標に向かって一丸となって努力する部活の素晴らしさを感じました。

附設高校の先輩であられる先生方に尽力いただき、九州大学病院にお勤めの先生や在籍されていた先生と学生が一堂に会する「九州大学病院キャンパス附設会」が昨年より開催されております。昨年は40名の先生方と60名の学生にご参加いただきました。初回は現校長の町田健先生(23回生)に、第2回は武内和久・北九州市長(38回生)ご講演頂き、その後は懇親会を行いました。去年はコロナ禍ということもあり校歌は静聴にとどまりましたが、今年は斉唱することが出来ました。21回生の先生から71回生の学生まで懐かしさを感じながら斉唱されている光景に附設高校の歴史の厚さを感じました。

毎年20名超えの附設生が九州大学医学部に入学しており、病棟実習をすると視界の中に必ず附設の卒業生がいらっしゃいます。私が腰のヘルニアになったのも、先生方の「あ、俺59」という一人称と数字のみの発声に、条件反射で90度のお辞儀ができるようになったからだと考えています。それは置いておきまして、おかげさまでアットホームな環境で実習することができています。

近頃特に先輩方、同級生、後輩とのつながりをありがたく感じる場面が多々あります。今後もこの繋がりを財産として大切にしていきたいと思っております。拙い文章ではございますが、同窓会会報への寄稿とさせていただきます。



萩原美咲

(中学45回生 高校67回生)

早稲田大学文学部 4年

留学を振り返って

附設同窓会の皆様、こんにちは。附設67回生、早稲田大学文学部4年の萩原美咲と申します。附設には女子一期生として中学からお世話になりました。拙文ではございますが、留学の話を中心にこれまでの学生生活について書かせて頂きます。

中高の頃から英語が好きで、国際的な環境に身を置いてみたいと思っていました。英語に興味を持ったのは図書館に置いてあった雑誌『Rockin' on』がきっかけです。ここから洋ロックの世界に取り憑かれ、私は西洋かぶれ女子高生に変貌しました。AC/DCなどハードロックにハマり、初心者バンドを結成し活動するなど附設時代を存分に楽しめました。

大学入学後は国際寮で生活するなど英語力の向上に励み、2年の秋学期の留学はコロナで一度頓挫したものの、1年後の再応募で渡航が決定しました。選んだ留学先はスウェーデンです。理由は英語で日常生活を送れる環境がある上に、社会学を専攻する中で北欧社会の福祉に興味を持ったからです。

8月中旬に、デンマークのコペンハーゲンに到着しました。私の留学先であるルンド大学はそこから直線で40km、電車で50分ほどの距離にあります。

到着して最初の1ヶ月程は、人との繋がりを求めて積極的にイベントに参加しましたが、文化的距離のせいかアジア人が孤立する場面が多くありました。国際寮の頃とは異なり、自分からアプローチしない限り人と繋がれないことに気づかされました。

最初に打ち解けたのはブラジル人の子で、カルチャーショックや疎外感について打ち明けたところ大変共感してくれました。キプロス人の友人も紹介してもらい、毎週末3人で会うほど仲良くなりました。

更に日本文化に興味を持つ学生とも繋がりたいと思い、10月には日本文化交流会というものを立ち上げました。声をかけるとスウェーデン、アイルランド、台湾、中国からの学生が20人程集まったので、カフェで毎週開催することにしました。彼らの日本に対する興味や学習意欲は驚かされるもので、音楽や食、生活に関する話から社会問題や政治の話まで幅広く知識を共有しました。それぞれの出身国について日本人留学生側が学ぶこともあり、お互い到大変有意義な時間となりました。

夏のルンドは日本の4月くらいの気温で、太陽が夜の9時頃まで昇っているのでも快適でした。冬の気温はダウンを着れば耐えられる程度でしたが、日の出が8時、日没が15時と日照時間が極端に短くなりました。そのためビタミン不足や鬱病などが懸念されるそうです。留学生にはビタミン剤が勧められ、冬の厳しさを覚悟しましたが、友人と過ごすことで乗り越えました。11月末に初雪が降り、ブラジル出身の友人は人生初の雪を見て飛び跳ねて喜んでいました。皆で子どものように雪遊びをしたことが今でも鮮明に思い出されます。寒く暗い冬を耐えた後も、どんよりとした肌寒い天気が続きました。休み期間にスペインやポルトガルへ旅行に行けたことは、良い気分転換にもなりました。

スウェーデンは物価が高いことで知られており、特にお酒は専売なので異常に高値ですが、スーパーの食材は日本よりも安いものもあり、普段は自炊すれば問題ありませんでした。授業や友人と会う他は料理や課題をして毎日を過ごしていました。

課題図書量が膨大で苦勞しましたが、興味深い授業もありました。動物愛護の授業では、多くのヴィーガンの学生と論究する中で、無謀にも日本の猿回し文化について話題を挙げてみました。初めは案の定一方的な批判を受けたものの、中立的な立場を意識して環境の問題や海外における事例を丁寧に説明していくことで、最終発表では高評価を頂くことができました。価値観の違いを乗り越えるための対話力が身についた貴重な体験になりました。

現在、多くの場面で留学以前との変化を感じます。異文化が交錯する中、自己表現を必要とされる場に身を置いたことで対人関係における積極性と包容力が身についたと思います。また、海外の学生に日本について語るうちに日本社会の問題点だけでなく尊重すべき文化が豊富にあることにも気づかされました。

この全ての経験の原点は附設にあると思います。今でも英語を使う時、附設の授業を思い出すことで理解できていますし、英語以外の成績は芳しくはなかったものの先生方のおかげでどの科目も苦にはならず受験を乗り越えることができました。

現在就職活動中ですが、就活に関することでも附設OBの方々が忙しい中、相談に乗ってくださっています。先輩方から頂く社会人としての大変貴重なアドバイスが私の心の大きな支えになっています。附設が与えてくれた機会とご縁には本当に感謝しております。社会人になっても、皆様からのご恩を忘れずに精進して参ります。



ルンド大学図書館



交流会の仲間と



キプロス、ブラジルの友人



さき はら ひろ あき
崎原大暉 (69回生)

福岡県久留米市出身
 東京大学医学部医学科3年、

sakihara-hiroaki929@g.ecc.u-tokyo.
 ac.jp

※TEDとは、テクノロジー (T)、エンターテインメント (E)、デザイン (D) が一体となって未来を形作るという考えに基づき参加者間で交流を図り、日本の未来を背負うイノベーターを生み出す事を狙う団体です。TEDxUTokyo は、TED本部から公式ライセンスを取得し開催した日本初のTEDxUniversityです。2012年の創設以来、日本の大学開催のTEDxの牽引的存在として、「知」を軸とした価値のある、しかしまだ知られていないアイデアを発信してきました。そして、TEDxUTokyo 2023 "どくどく" は、アカデミア・アントレプレナーの最先端が集う東京大学にて、学問・研究分野はもちろん、多岐にわたる分野のアイデアの発信を行うべく実施された、数百人規模のカンファレンスイベントです。

20代の過ごし方

こんにちは。高校69回生、東京大学医学部医学科三年の崎原大暉です。現在は解剖実習が終わり、同科目の試験を控えて勉強をしています。普段は医学部のバドミントン部に所属しており、週3回練習をしています。今年は新入生歓迎を行う代だったのですが、新入生が14人も入部してくれて驚きました。コロナがかなり落ち着いて、対面イベントが増えたというのも大きい気がします。週末にはバドミンントンの試合が入ることもありますが、その他のサークルなどには現在入っていないため、勉強と運動(とバイト)だけの毎日を単調な日々だと思うことも時々あります。もしかすると東京の楽しみ方が分かっていないだけかもしれませんが。最近では東京の適当な駅で下車してから、ここは江戸時代の頃はどんな町で、昭和時代はどう変わったのかなどを調べながら6~7キロほど散歩するという地理部のようなことを一人でやっています。

さて4月の終わりには附設の文化祭が開催されたということで、一日目に足を運んだ高校同期の写真をインスタで見るとして羨ましく思っていました。僕はその日、高校同期の土橋乃空(69回生)君や、大学の友達が運営を行っていたTED x U Tokyo(※)というイベントに足を運んでおり、個性的なスピーカーの方々のお話に、普段はなかなか知り得ないアイデアの刺激を受け取った気がしました。一番強烈だったのが、自分から山の中に一日埋まることで世界の見え方が変わるのか試したという方のお話です。色んな人が手伝って、人が一人入る穴を掘ってもらいその中に入るというのが、もう僕らの理解を超越していました。他にはもちろん自分の将来の生き方を考える上でとても為になる話もあり、楽しい時間を過ごせました。中高の頃から文化祭の講演には興味がある方だったので、今でもそれは続いているようです。

因みにこの話には続きがありまして、TED x U Tokyoのオフステージのブースで何となく申し込んだ植樹ボランティアの抽選に申し込んだところ、これが見事当選しまして人生初の東北へと行ってきました。そして当日集合場所の原ノ町駅に行きますと、なんと土橋君もそこにおりました。彼はTED x U Tokyoの運営の方で声がかかっていたということでしたが、それにしてもなかなかの偶然と言っているのではないのでしょうか。

ともかくそのような経緯で、福島にて植樹をしてきました。小さい頃以来の植木の作業で、懐かしい気分になりながら穴を掘っては木を植えて、土をかけ薬をまいてきました。最近自然に触れることが少なくなっていたので、合計30本ほど植える作業もとても楽しいものでした。東日本大震災のことはテレビや新聞でしか見ていなかったため、実際に現地の方の声を聞いていくことは大切だと思ったので、今度はもっと地元の方と話せるといいかなと思っています。帰りには仙台で一泊して、翌日には松島も観光しました。ただ歩いているだけではもう復興しているように見えていましたが、所々に“津波ここまで”の印があり、復興はしても風化させないという地元の方の思いが感じ取れました。

先ほど単調な日々ということを書きましたが、もしかすると途轍もない速さで変化する世間の情報過多に対して自分の中の何かが麻痺しているのかもしれませんが。この年齢特有の自己同一性の確立という課題がしっかり自分にも当てはまっているようで何とも言えない気持ちですが、それでも新しいことを五感で感じ、そこに課題を見出すという体験が自分を良い方向へと変えていくのではないかと考えております。ちょうど先の東北での経験もその一つとして自分の中で育っていかばいいなという思いです。様々な個別最適化されたツールに身を置きつつも、それに甘んじることなく新たな世界へと飛び込んでいくことを恐れない20代であれたらと願い、またその先駆者となっていらっしゃる同窓生の方々には多大なる敬意を表しております。拙筆ながら、最後までお読みいただきありがとうございます。



平野 環
(中学49回生 高校71回生)

北海道大学獣医学部1年

目標に一步近づいて

附設同窓会の皆様、初めまして。71回生の平野環と申します。昨年度6年間お世話になった附設を卒業して、北海道大学獣医学部に進学しました。今回、同窓会誌への寄稿というありがたい機会をいただきましたので、大学での生活を紹介しようと思います。

北海道大学は札幌の中心部に広大なキャンパスを構える総合大学です。1年生のうちには総合教育部に所属し、他の多くの大学と同様に教養科目を学びます。1クラスの中に、某大学の進振りのような、1年次の成績をもとに2年次以降所属する学部を決定するという総合入試制度で入学した学生と、私のように学部別入試制度で入学した学生が混在しているのが特徴です。意外にも道外出身者が大半を占めているため、多くの出身地や所属学部の異なる友人と出会うことができました。早く専門科目を勉強したいという気持ちも大きいのですが、学部移行してしまっただけでは受けられない他学部の教授や、普段は大学院で研究をされている方の授業を受けることができるのは貴重な機会です。例えば、野生動物保全に関する授業を履修しているのですが、教壇に立っている先生は自然科学系の学部かと思いきや文学部に所属されています。これは、研究対象は動物であっても、獣害や外来種問題は人間の関わる“社会問題”であり、人文科学的なアプローチが必要であるからだそうです。文系と理系に科目が分かれていた高校までの学びとは違った知識を得ることができ、楽しんでいます。

生活面では、気候の違いというのが今のところ最も印象深いです。まず、二次試験のあった2月には見たこともない雪の量と、最高気温が2、3℃で「今日は暖かいですね～」と言っている天気予報に驚愕し、入学した4月もまだ校内のいたるところに残雪がみられ、雪がちらついたこともありました。その後も徐々に気温は上がったものの、寒いというワードを口に出さなくなったのは、やっと6月に入ってからのような気がします。

さて、私がなぜ北海道大学を目指したかということ、ひとえに獣医学部があったからです。獣医師を志したきっかけは小学生の時、テレビで森林火災の被害にあったコアラの救護活動を行っている方々のドキュメンタリーを見たからだだったような気がしますが、その後、獣医師は「動物のお医者さん」だけでなく、食品衛生分野、インフルエンザなど人獣共通感染症への対策などの分野にも活躍の場があることや、幼少期抱いていた印象とは社会的な立場などにギャップがあることを知り、興味のある分野は転々としていました。しかし、基本的に飽きっぽいせいで、変なところで頑固な性分が発揮された結果、獣医師を目指すという部分はぶれることなく、受験勉強など様々なことへの原動力になっています。

世界が少しずつ広がって新しいことに楽しんだり疲れたりするとともに、自分が今までいた環境を振りかえることも多々あり、6年間慣れ親しんだ附設やそこでできたつながりの貴重さと大切さを日々改めて感じています。昨年までは同じ校舎で、同じことを学んでいた友人達と異なる専門分野をバックグラウンドにもって、違う視点から語らうことができるのを今は楽しみにしています。また、様々な場で附設同窓生の皆様とお会いして、お力添えをいただくことがきっとあるかと思いますが、その際はよろしく願います。私もいつか誰かの力になれるよう、夢を実現できるような学生生活を頑張っていきたいです。

附設高等学校 大学入学試験合格状況

国公立、大学校など合格者数 (単位:人)

2022年度		2023年度	
東京	43	東京	37
九州	37	九州	45
京都	17	熊本	13
佐賀	10	京都	11
熊本	7	佐賀	7
山口	6	長崎	6
大阪	4	一橋	5
鹿児島	3	東京工業	4
防衛医科	7	防衛医科	9
その他	44	その他	48
合計	178	合計	185

※その他に、自治医科、産業医科、大学校(防衛医科除く)を含む

国公立医学部医学科合格者数 (単位:人)

2022年度		2023年度	
九州	24	九州	29
佐賀	9	熊本	10
熊本	7	佐賀	6
山口	5	長崎	4
東京	4	鹿児島	4
鹿児島	3	京都	2
長崎	2	広島	2
京都	1	名古屋	1
大阪	1	大阪	1
その他	13	その他	16
合計	69	合計	75

※その他に、後援との選別のため、自治医科、産業医科を含む

私立大学合格者数 (単位:人)

2022年度		2023年度	
慶應義塾	30(1)	早稲田	32(-)
早稲田	29(-)	明治	27(-)
明治	19(-)	慶應義塾	25(3)
同志社	16(-)	中央	25(-)
中央	13(-)	同志社	18(-)
福岡	12(7)	上智	15(-)
立命館	11(-)	東京理科	13(-)
東京理科	10(-)	法政	10(-)
a久留米	7(7)	久留米	9(9)
その他	76(15)	その他	62(14)
合計	223(30)	合計	236(26)

※(-)の数字は医学部医学科合格者数、()は授業なし

今後に向けて

高2までは日々の学習を年間5回の定期テストで確認しますが、高3と浪人生希望者は年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は約4割、4回平均で5割以上だと、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に、東大理系以外は、4割5分以上ではほぼ合格できます。問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。直接高3の授業を担当していなくても、問題作成と採点を通じて毎年受験生と関わりを持つことになります。自分が担当する学年が高3になったときに、この校内模試に対応できる実力がついていよう、高2以下の生徒の学習指導に生かしていきます。

現役の卒業生は、高1のスタートに「緊急事態宣言」による休校があり、6月になってやっと入学式を迎えた世代でした。高校2年の年度末に予定されていた修学旅行も準備を進めたものの直前に中止を余儀なくされ、何かと高校生活において行動が制約された学年でした。その中でも生徒一人一人、うまく心の整理をしつつ、受験勉強へと重心を移動していったと思います。課題であった英語力の弱さも高校2年のときに急成長を見て、他教科へ演習の時間を回せたこともあり、理系を中心に高校3年時には各種の模試でも良い成績を出すようになりました。実際、共通テスト・2次試験ともに好結果を残してきました。中でも東京大学には現浪合わせて37名が合格し、そのうち32名が現役での合格と立派な結果を出してくれました。特に理科一類に現役で20名合格というのは、附設の歴史の中でも新記録です。

今年の国公立医学部医学科(産業医科を除く)合格者数は現浪合わせて69名、これは全国3位の数字です。そのうち現役合格者数は43名となっており、「現役合格率」では全国1位となりました。20%を超えたのは全国の高校の中で附設だけ、という快挙です。近年、附設では現役での医学部合格者数が増加しています。これは、2013年に中学を男女共学化し、入学時から医学部を志望する女子が増えてきたことが一つの要因だと感じています。ただ現役高3(71回生)は、上記のように理系の中でも東大などの志望者も多く、特に医学部志望に偏っていない学年でしたが、それでもこの結果を残してくれました。志望学部に関係なく、一緒に頑張るといふ雰囲気醸成された効果が大きかったのだらうと感じています。

現役での進学数が増加し、それに伴い浪人生が減少しており、ここ数年附設では私立大学の合格者数は減少傾向にあります。そんな中、この2年は私立大学の合格者数が増加しました。現役生に限ってみると昨年よりは若干減少しているのですが、浪人生の合格者が15名ほど増えた結果、全体では若干増加したと分析しています。附設では私立の受験者は理系よりも文系の方が圧倒的に多い現状があります。今回の結果は浪人生に文系の生徒が多かったことが影響したのでしょう。次年度は新課程入試とはさまのタイミングになるため、浪人を避けるために通常より私立の受験が増える可能性があります。場合によっては3年連続で増加することもありうると予想しています。

東京大学合格者

2023年度

37名

うち32名が現役合格

コロナ禍の受験をふりかえって

現役合格者数(国公立医学部医学科)

2023年度

43名



「現役合格率」は全国1位

私立大学合格者数

2022年度

223名

2023年度

236名

私立大学合格者は若干増加

現役高3(71回生)は、国語科の学年主任を中心に、英数国理社の担任団が生徒・保護者と綿密にコミュニケーションを取りながら、コロナ禍の高校生活を支えてきました。懸念されていた英語力も高校入学後に単語力など基本事項の大切さを説き、徹底してテストを繰り返すなど地道に指導し、見違えるほどの力をつけました。もともと英語力の高さも相まって、多くの生徒を希望する大学へ導きました。一方、成績開示を見ると、あと数点足りずに不合格という生徒もあり、受験の厳しさも同時に知りました。これからは、授業と特講で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

進路指導担当 行正 幸司 (47回生)

在校生の活躍

在校生が本校外部の各方面で活躍しています。その一部を紹介します。

附設高校 教諭 木村 慶二

(2022年6月)

中学ディベート部 九州地区大会準優勝、全国大会出場

6月に行われたディベート甲子園九州地区大会にて中学2年3人、中学1年2人からなるチームで準優勝しました。「日本は中学生以下のスマートフォンなどの使用を禁止すべきである。是か非か。」を論題に、8月に東京で行われる全国大会に出場しました。

(2022年9月)

日本生物学オリンピック2022 金賞および銀賞受賞

日本生物学オリンピック2022本選大会が9月17日から19日まで慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(山形県鶴岡市)で開催され、高校2年の井上紗綺さんが見事金賞に、高校3年生宮崎莉子さんが銀賞に輝きました。また、この大会は国際生物学オリンピックの日本代表候補選考も兼ねており、高校2年生以下の成績優秀者で構成される日本代表候補12名の中に井上紗綺さんも選出されました。

(2022年12月)

高校演劇部が九州大会にて最優秀賞受賞し全国大会に出場

高校演劇部は12月23日(金)24日(土)鹿児島市川商ホールにて行われた第47回全国高等学校総合文化祭演劇部門プレ大会第64回九州高等学校演劇研究大会に福岡県代表として参加しました。

演目 「戯王【gi:oh】」

附設高校演劇部顧問・岡崎賢一郎作

九州各県代表11校の中、最優秀賞(文部科学大臣賞・全国高等学校演劇協議会会長賞)を受賞し、来年度7月に実施される第47回全国高等学校総合文化祭演劇部門に、九州ブロック代表として参加します。

(2023年2月)

「EGMO 2023 ヨーロッパ女子数学オリンピック」日本代表決定

『EGMO(European Girls' Mathematical Olympiad) 一次選抜試験』、『JMO(Japan Mathematical Olympiad) 予選』で優秀な成績を取めた高2D 山之内 望花さんがヨーロッパ女子数学オリンピック日本代表に選出されました。EGMO 2021大会に続き2回目の快挙となります。

本年のEGMO一次選抜試験では、87名が受験し、そのうち10名が合格しました。その後に行われたJMO予選の結果を加味して、EGMO 2023の日本代表選手4名を決定致しました。数学オリンピック財団では、2回の通信教育・強化合宿を通してEGMO日本代表選手としての心構えなども身につけていく

ことを計画しています。前回出場したEGMO 2021ジョージア大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり東京での開催でしたが、今回は4月にスロベニア：ポルトロスにて開催され、銅メダルを獲得しました。

(2023年3月)

中学3年生の卒業論文が第66回日本学生科学賞、第66回全国学芸サイエンスコンクールにおいて金賞受賞

読売新聞社主催の第66回日本学生科学賞全国中央審査において、中学3年の鈴木裕悟君の卒業論文「ピクトグラム判別アプリケーション」が情報技術分野で科学技術振興機構賞を受賞しました。また、全国中央審査の事前審査として行われた福岡県審査では、物理分野で最優秀賞に林大和君、優秀賞に寺崎颯太君、努力賞に安田直翔君、化学分野で最優秀賞に坂本陽太君、生物分野で最優秀賞に松永朔玟君、優秀賞に岩下航太君、努力賞に岩熊陸君、広領域分野で最優秀賞に田村悠花さんが選ばれています。

(2023年3月)

第12回科学の甲子園全国大会結果報告について

茨城県つくば市で開催された第12回科学の甲子園全国大会(3月17日~19日)に、久留米大学附設高等学校の選抜チームが出場しました。総合優勝には届かなかったものの4部門中の2部門で第1位を獲得しました。筆記競技：第1位「スカパーJ S A T賞」、実技競技②：第1位「学研賞」を受賞するなど、素晴らしい結果を収めました。

(2023年7月)

2023年国際生物学オリンピック金メダル受賞

2023年7月にアラブ首長国連邦・アルアインで開催される第34回国際生物学オリンピックの日本代表に高校3年の井上紗綺さんが選ばれました。大学教員や専門家も交えた国際生物学オリンピック日本委員会・プロジェクトチームによる特別教育を受け、国際大会に臨み、見事に金メダルを受賞しました。

(2023年7月)

2023年国際化学オリンピック金メダル受賞

2023年7月にスイスのチューリッヒで開催される第55回国際化学オリンピックの日本代表に高校3年の山之内望花さんが選出されました。山之内さんは、2度にわたる「EGMO ヨーロッパ女子数学オリンピック」日本代表に続き、3回目の日本代表という快挙を成し遂げました。7月に臨んだ国際大会では、見事に金メダルを受賞しました。



杉本 青唯 (72回生)

生徒会長

春過ぎて 夏来にけらし 附設生

はじめまして。附設高校72回生で、生徒会長を務めさせていただきました、杉本青唯と申します。愛する附設について先輩方にお伝えする機会をいただいたことを光栄に感じます。私からは、附設の近年の変化(コロナとの向き合い方)と、72回生の受験への抱負についてお話させていただきます。

まず、新型コロナウイルスについて。コロナは、我々72回生が中学2年生の冬だった頃に猛威を振るい始めました。諸々の行事に影響を与えながら、それから3年半以上の月日が経過しました。我々は学生生活の半分以上を、コロナと共に過ごしてきたことになるのです。世間でコロナへの認識や対応が変わる中、附設の行事も「beforeコロナ」と「コロナ時代」に行われた活動の中から、有意義だと思ふものを取捨選択しながら行っています。例えば、5年以上前の先輩方の引き継ぎ資料を参考に「beforeコロナ」を試行錯誤しながら検討したり、コロナ時代に成立した、体育祭のDVD・オンライン配信を存続・改良させたりしました。コロナ時代の文化を消化して、かつてのものと融合させながら新たな行事を作り上げることを目指しています。

実は72回生は、コロナの前・中・後の全ての時期を体験している珍しい学年です。そんな我々は、行事の中止・再開を通じて、改めて附設生の個性の豊かさを身に染みて感じています。

附設生の強みは、受験勉強特化の才能ではなく、芸術などの多彩な個性にあるのだと思います。少し話が逸れますが、附設生はよく世間から「奇才」と称されます。そして当の現役附設生はというと、その評価に満更でもない反応を示している…気がします。「奇才」には、「非凡」というニュアンスが多分に含まれており、そのニュアンスに我々は喜んでいるのですが、それはきっと、附設生が「面白い人間」を目指しているからでしょう。受験勉強のみでなく、それ以外の強さを兼ね揃えた「面白い人間」になることが「奇才」の称号の獲得条件なのです。コロナによる文化活動の縮小の反動か、附設生はますます芸術面でその才能を開花させていると、後輩の様子を見て感じております。「面白い人間」を目指すという点で附設生らしさが増長していると言えるでしょう。

2ヶ月ほど前から、後輩が生徒会活動の中心を担うようになりました。先月には後輩がクラスマッチ運営に成功させており、今後の行事もとても楽しみです。直近では、夏休み明けの体育祭に備え、高一高二が応援団の練習をする声が、受験勉強中の高三の教室の外からかすかに聞こえます。趣深いです。

次に、72回生の受験の抱負を宣言いたします。

我々は文化祭が終了した後、本格的な受験モードに切り替わったのですが、今年は気合を入れるため、坊主・ショートカットになる男女がとても多く(約30人)、新たな伝統の始まりを感じています。散切り頭ですら叩いたら文明開化の音がするので、坊主頭を叩けば第一志望合格の音がするに間違いありません。

最近(7月中旬)では、校内模試や冠模試も行われました。模試でコテンパンにやられ、弱点の発見と克服の日々が続いています。寸暇を惜しんで朋友と勉学に勤しむ日々は大変ですが、刺激的であり、受験勉強自体は非常に楽しいです。(72回生の総意かは分かりません笑)

共通テストまではあと半年、身が引き締まる思いです。同級生から、太宰府や高良大社に参詣したという話もちらほら聞き、天命を待つのは少し早くないか…とは思いつつも、受験生としての自覚を強く持っていることは間違いありません。更新され続けている附設の輝かしい合格実績に、胸を張ってまた新たな数字を書き込めるよう、72回生一同頑張ってます。



市川直太郎 (72回生)
第53回久留米大学附設高等学校文化祭
実行委員長

文化祭について



本年度は新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、四年ぶりに一般公開のできる文化祭が帰ってきた。一度完全にストップした「従来の文化祭」を取り戻しつつ、そこに新たな要素を加えることは難題であったが、仲間の支えがあり文化祭は無事成功した。ここでは私が文化祭に至るまでに考えていたことを述べさせていただきたいと思う。

本年度、自分が文化委員長として先頭に立って文化祭を創っていく立場となった時、まず初めに行ったのが「文化祭とは何か」「どういう文化祭を創りたいか」の二つの問いに対する最適解を明確にして、発信することだった。

近年の附設では、文化祭に対する当事者意識が少しずつ薄れつつあるといわれている。運営が全部決めるものだろうとあって、決められたことを待つだけになっている人が増えているのだ。その結果が、いわゆるマンネリ化である。私はそのような文化祭を創りたくはなかった。「みんなで」というのはきれいごとのように聞こえるかもしれないが、附設の、附設生の文化を表現する場なのだから、可能な限り多くの生徒の持つ考え、思いが反映されるべきで、そのためには多くの生徒が当事者意識を持ち、文化祭について考えることが必要なのだ。私は9月初頭に発行した文化委員会報で、文化祭の指針として「生徒全員で想像する文化祭」「附設生の持つ文化を最大限表現すること」を掲げた。具体的に何をするかについては一切言及しなかった。

運営は極力、各部署がやりたいと思うことの内容には口出しをしないということを中心掛け、可能な限り全てのことが実現できるようにしてきた。文化委員で考えていた企画、演目は残念ながら諸条件が合わず、実現には至らなかったが、それでも当日を迎えると自分でもこれまでに見たことのないようなユニークな企画が多く、感動すると同時に誇らしく感じた。我々の学年、72回生は非常に元気のいい、活気ある学年だと先生方から言われる。今回の文化祭はまさにそんな72回生の個性が前面にあふれた文化祭になった。無事に成功したのだ。

考えてみれば文化祭とは非常に抽象的なものである。その定義は極めて曖昧だ。文化祭には成功はあるが、正解はない。だからこそ附設生は思い思いの文化祭を創造し続け、そして今日に至るのではないかと私は考えた。第53回文化祭は様々な方のお力添えのもと無事成功したが、これが正解ではない。これからの附設の文化祭を担う後輩が、決してたどり着くことのできない正解を求めて奮闘し、そして彼らの文化祭を成功に導いてくれることを、文化祭に携わった一OBとして楽しみに見守っていきたいと思う。

最後になるが、協賛などを通じて本校に多大なる援助をしてくださる先輩方のおかげで本年度も無事に文化祭を開催できた。心より感謝の意を述べたい。



坂田真一先生は41回生です

令和4年度教育振興基金を財源とした 活動の報告について

附設高等学校・中学校校長 町田 健

令和4年度は徐々に学校活動がコロナ禍前に戻ってきました。感染対策を引き続き行いながら、屋外で生徒が憩える場所を提供するため、食堂横のスペースを利用してウッドデッキのテラスとテーブル・椅子・ベンチを設置しました。その際の経費について教育振興基金より支出いたしましたので、ここにご報告いたします。

生徒が安心して勉学に励み、快適な学校生活が送れる環境を整備するために、引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。



体育館1階南側食堂入口横



体育館1階東側食堂横スペース①



体育館1階東側食堂横スペース②

附設グッズのご紹介

URL <https://kurume-u-ep.jp/news/fusetu-item/>

附設グッズの売り上げの一部は教育振興基金に寄付され母校の教育環境整備のために使われますので、同窓会員の皆様にも売り上げへのご協力をお願いいたします。母校売店やインターネットにて購入できます。附設グッズはその他にもございます。上記URLよりご確認下さい。なお、附設カレーは、諸般の事情により、販売を終了いたしました。



附設中高グッズ エコバッグ 各¥880(税込)

商品番号：060
 サイズ：本体／約290×360(持ち手含む540)mm
 持ち手／約60×180mm
 折りたたみマチ／約190mm

容量：14L
 素材：ポリエステル
 カラー：黒・紺・青・赤・カーキ

人気のエコバッグ「クルリトデイリーバッグ」から附設バージョンが登場。附設校正門をモチーフにしたデザインがプリントされています。クルクルと簡単にたたためてコンパクトに持ち運べるのが最大の特長です。質感や持った時の手の感触にこだわった高密度ポリエステルは、洗濯ができる上に、使ってもシワになりにくい素材で、手に持ったとき、肩にかけたときに負担になりません。



附設中高グッズ 三菱五角(合格)鉛筆 あすき色HB 1セット5本入り ¥500(税込)

商品番号：054
 附設校の正門をモチーフにした校名入り。
 中学バージョンと高校バージョンがあります。



附設中高グッズ マフラータオル 各¥1,500(税込)

商品番号：055
 サイズ：20×110cm 色：赤・黒
 体操服などに使われている「FUSETSU」のロゴ入り。
 今治産のジャガード織で表と裏がキレイに反転します。

2023年 6月 久留米大学附設高等学校同窓会

『終身会費』納入のお願い

同窓会 会長 吉田 清隆 (23回生)

同窓生の皆さまには日頃より同窓会活動へご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、同窓会活動の主な財源は、入会金、年会費、終身会費および広告協賛金や寄付金により成り立っております。

入会金と年会費については高校在学中に校納金（授業料など）と一緒に納入済です。終身会費については、65回生以降は高校在学中に校納金と一緒に納入済ですが、1回生から64回生までは卒業後に納入することになっています。

1回生から64回生について、2022年度はありがたいことに157名の納入がありましたが、納入率はまだ61.5%です。

終身会費制度は1977年（昭和52年）附設高校創立25周年記念式典当日の同窓会総会にて決議、導入されました。

終身会費（同窓会特別会計）の用途は同窓会規約会計細則に「母校の記念行事、設備資金の支援や一般会計の赤字資金充当等」と記述されており、これまで、創立50周年事業費の一部、卒業生名簿の発行、同窓会活動費用赤字補填、創立60周年事業における母校の環境整備等で、合計約8,800万円を支出してきました。

同窓会の目的は会員間の互助親睦と母校の発展を図ることにあります。

毎年の同窓会会員向け活動としては、同窓会報の発行をはじめ支部総会・懇親会、就職セミナー、附設塾、回生代表世話人会、新人歓迎会といった行事を行っております。また、母校支援も積極的に行っており、生徒会活動（男く祭、体育祭）、各クラブ活動、進路講座などへの支援や卒業生への記念品贈呈等を行っております。

特に2020年度および2021年度は、同窓会報広告協賛金や同窓会活動費から母校が運営する教育振興基金（同窓会も運営委員として参画）へまとまった寄付を行い、同基金を活用して母校の各種コロナ対策が実施されました。

趣旨をご理解いただき、1回生から64回生で終身会費未納の方は、下記手順により是非とも納入をお願いします。

今後とも同窓会の運営と活動に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終身会費払込の確認

ご自身の終身会費の「未納」「完納」は、同窓会HPの「WEB名簿」にログイン後、「プロフィール確認・変更」の「基礎情報」で確認できます。ログインに必要なID・PW（パスワード）がご不明な方や初めてログインされる方は、「お問い合わせ」から、ID・PWの問い合わせを行ってください。



終身会費振込方法

終身会費(30,000円)未納の方は下記の口座にお振込みください。振込手数料はご本人負担にてお願いいたします。お振込みにあたり振込人氏名には、最初に回生番号を入れてその後にご自身のお名前をお願いいたします。（見本：21フセツタロウ）

ゆうちょ銀行からの
振込の場合

同封の振込取扱票をご使用ください。
同票がない場合、窓口で同票を受け
取って記入後お振込みください。

口座記号

01750-7

口座番号

0054988

名義

久留米大学附設高等学校同窓会

銀行から
ゆうちょ銀行同窓会口座
への振込の場合

- ①金融機関名：「ゆうちょ銀行」
- ②支店名は、「イ」と入力。支店名：「179」を選択
- ③種別は、「当座」を選択。
- ④口座番号は「54988」
- ⑤口座表示
「クルメダイガクフセツコウトウガツコウ
ドウソウカイ
ゆうちょ銀行 一七九 当座0054988」と表示

附設高校同窓会会員の皆様へ

2023年(令和5年)8月吉日

久留米大学附設高等学校同窓会
会長 吉田清隆

教育振興基金への寄付のお願い

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。そして、この世界的な難局にご尽力されている方々に感謝申し上げます。

母校では、令和4年度において、教育振興基金を財源とした環境整備を実施しております(56ページご参照)、今後も引き続き生徒の学力向上ならびに学校生活の充実を狙いとして教育環境の整備と財政基盤強化を図るべく、同窓会の皆様には、趣旨をご理解いただき、同基金への寄付をお願いする次第でございます。

1) 銀行からの振込方法

振込先: 福岡銀行 久留米営業部 普通預金 1722400 / みずほ銀行 久留米支店 普通預金 1662333

口座名: 久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い: お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

2) 郵便局からの振込方法

振込先: 01720-9-45035

口座名: 久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い: お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

3) インターネットからの申し込み方法

附設高校ホームページ⇒教育振興基金⇒久留米大学へのご支援をお考えの皆様へ⇒

インターネットからの申し込み(個人の方のみ)⇒寄付をする⇒寄付の種類⇒

16番「附設高等学校・中学校教育振興基金」⇒メールアドレス登録⇒寄付を開始⇒案内に従い入力。

注意事項: 手続きの最後に確認事項として、寄付者の属性の質問があります。

質問3(必須)では「**附設卒業生**」を選択、質問4では「**附設高等学校**」を選択、質問5では「**高校回生番号**」を入力することで、附設同窓生による寄付であることが明確になります(右図をご参照ください)。

クレジットカード払い、コンビニエンスストア、銀行支払い(Pay easy)ができます。

3 本学との関係につきましては、当てはまるものをご選択ください。	<input checked="" type="radio"/> 附設卒業生
4 卒業生、在學生、在校生の方は学校名をご選択ください。	<input checked="" type="radio"/> 附設高等学校
5 卒業生、在學生の方は学部と学類番号、附設生については入学回数または卒業回数の数字のみをご入力ください。	<input type="text" value="23"/>

4) 問合せ先 久留米大学附設高等学校・中学校事務室 電話 0942(44)2222

以上

広告協賛、寄付金等ご協力への御礼

同窓会会長 **吉田清隆** (23回生)

同窓会副会長(広報・広告担当) **勝連治** (33回生)

福岡支部長 **実藤光二郎** (26回生)

東京支部長 **栗木康幸** (21回生)

福岡支部総会幹事長 **井村公哉** (34回生)

東京支部総会幹事長 **齋藤崇之** (40回生)

この度は本同窓会報の発行にあたり、広告協賛や寄付金のご協力を賜り、誠に有難う御座いました。広告協賛の募集に際しまして、寄付金としてのご協力も頂いております。

改めまして、皆様からのご厚誼に厚く御礼申し上げますと共に、皆様の更なるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会への寄付金寄贈者のご芳名

横山隆人様(40回生)

●同窓会室の紹介●

1号館1階の旧事務室の後方（体育館側の入口から入って右手側）に、同窓会室と後援会室が一体になって同じ室内に設置されております。同窓会と後援会のより一層の連携・協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。卒業アルバム、附設50年史をはじめとした記念誌、同窓会報バックナンバー、冊子で発行された過去の同窓会名簿なども資料として保管されており、閲覧が可能です（但し、一部欠落がございますので、予めご了承下さい）。1号館の解体に伴う2025年の移転の前に、事前にご連絡を頂いた上で、現・同窓会室に一度足をお運び下さい。

同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品、今年からはフォトフレーム付き電波時計 ▶



同窓会に対する各種問い合わせについて

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257

【問合せフォーム】<http://fusetsu-dosokai.com/contact>

【同窓会ホームページ】<http://fusetsu-dosokai.com/> 【WEB名簿】<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

【同期の回生代表世話人】P.43ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせください。世話人の同意を条件に回答を差し上げます。

※住所変更などのご連絡は、メールの他、電話およびFAXでも受け付けしております。（本文P.21ご参照）
※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡ください。

同窓会ZOOMについてのご案内

コロナ禍を経て、オンラインミーティングが一般的になりました。同窓会では、ZOOMのアカウントを保有しておりますが、こちらは同窓会員の皆様もご利用頂く事が可能です。ご同期との懇親会などで積極的にご活用いただければと存じます。詳しくは、同窓会ホームページの2022年8月4日付のお知らせ「同窓会ZOOM利用のご案内」をご覧ください。

過去の同窓会報を探しています！

去年の同窓会報にて、過去の同窓会報、具体的には第1号から第3号まで（尚、第4号は1980年（昭和55年）の発刊です）を捜索している事を告知させて頂きましたが、残念ながら有力な情報が得られておりません。些細な情報でも構いませんので、何らかの手掛かりをお持ちの方は、同窓会事務局までご一報頂きますと幸いです。特に、御父様・御祖父様が同窓生の方は、ご実家に帰省された際などに、ご確認頂けますと幸甚です。

◆編集後記

今年も、同窓会報の発刊にこぎつける事ができました（勿論、この編集後記を執筆している段階では、まだ編集の最終盤ではありますが）。今夏は、酷暑のニュースで久留米が全国の最高気温を記録したとしばしば取り上げられ、豪雨の影響で母校は休校となり田主丸では大規模な災害が発生し、新型コロナの感染者数が再び増加しているとの報道があり、厳しい状況ではありますが、コロナは2類から5類に移行し、懇親会が復活した7月の定期総会・福岡支部総会は、非常に楽しく有意義で感慨深いものがありました。今後は、コロナ禍前以上に同窓会活動が活発になる事を願ってやみません。今後も、その活動内容を同窓会報で皆様にお知らせできればと存じます。

最後になりますが、本会報にご寄稿ご協力頂きました皆様、編集・印刷にご協力を頂いた糸川印刷様（高尾野健社長(35)、岩佐直樹様）に改めて厚く御礼申し上げます。（広報委員会委員長 勝連 治(33)）

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会・広告募集制度委員会：勝連 治委員長(副会長、33)、古賀善彦委員(副会長、23)、中村和徳委員(副会長、27)、栗木康幸委員(理事東京支部長、21)、実藤光二郎委員(理事福岡支部長、26)、井村公哉委員(福岡支部幹事長、34)、齋藤崇之委員(東京支部幹事長、40)

協力：34回生福岡支部幹事団(秋本丈司幹事、永田八栄幹事、他)、40回生東京支部幹事団(岡 泰宏幹事、榎下健司幹事、兼行孝幸幹事、他)、白水孝典先生、堤 光雄先生、穴井陽一附設中学校・高等学校事務室長、高橋友作顧問(19)、安部政信理事(20)、中村昌子様(同窓会事務局)、長野佐知子様(同窓会東京支部事務局(メディア総研))